

自
立
語
の
部

3 自立語の部

あ

あいぎやうづ・く「愛敬づく」《動四段》

―きハ用V 八九⑨

あいぎやうな・し「愛敬無し」《形ク活》

―くハ用V 四二①

あいな・し《形ク活》

―くハ用V 五六⑥

あかし「明石」ハ人名V 一七⑪

あかし「明石」ハ卷名V 一六⑥

あかし「明石」ハ地名V 三三⑫

あか・し「明かし」《形ク活》

―かりハ用V 九三⑨

―きハ用V 八⑨

あかしのおんかた「明石の御方」 三九⑥

あかしのきみ「明石の君」 三六⑪

あかしのにふだう「明石の入道」 三三⑭

あか・す「明かす」《動四段》cf. るあかす

―さハ未V *五三⑨ 九三⑬

―しハ用V 九⑪

あかぞめ「赤染」 八五⑦

あかつき「眺」 三〇⑨ 三三⑭ *三六⑤

三六① 四四⑭ 五三⑧

あからさま・なり《形動ナリ活》

―にハ用V 二九⑨ 五二⑫

あが・る「上がる」《動四段》

―りハ用V 四四④

あき「秋」 八⑧ *一六⑨ *三三⑥ *三六⑤

*三六④ *四七⑦

あきかせ「秋風」 三二② 三三① *三六⑤

あきもとのちゆうなごん「顕基の中納言」 九三①

あ・く「明く」《動下二段》

―けハ用V 五⑬

あ・く「開く」《動四段》

―きハ用V 二② 九三⑪

あ・く「開く」《動下二段》

―けハ用V 三⑭

あ・く「飽く」《動四段》

―かハ未V *三三⑫

あ・ぐ「上ぐ」《動下二段》cf. うちあぐ・ふきあぐ

―げハ未V 三②

あくが・る「懂る」《動下二段》

―るハ止V 三②

あくがれい・づ「懂れ出づ」《動下二段》

―づるハ用V *三三④

あげがた「明け方」 五八⑨

あげくれ「明け暮れ」《副》 五二⑫

あげぐれ「明け暗れ」 *三三⑥

あさがほ「權」ハ卷名V 一六⑭

あさがほ「朝顔」 *三五③

あさがほのみや「朝顔の宮」 一八①

あさぎり「朝霧」 *三五⑥

あさくら「朝倉」ハ作品名V 三三⑤

あさこと「朝毎」 一⑧

あさ・し「浅し」《形ク活》

―からハ未V 四八⑥ 四九⑫ 五二⑦

―けれハ已V *一六⑬

あさちがすゑ「浅茅が末」 *四七⑥

あさちがはら「浅茅が原」 *四二⑦

あさちがはらのないしのかみ「浅茅が原の尚侍」ハ作品名V 三三③

あさちぶ「浅茅生」 *四七④

あさばらけ「朝朗け」 *三五⑨

あさま・し《形シク活》

―しくハ用V 二⑨ 五二④ 五三⑫

五三⑬ 六七③ 六七④ 九一④ 九四④

―しハ止V 三②

―しきハ用V 三⑭ 三九⑬ 四三⑥

あさましが・る (動四段)
四① 四⑫ 五⑬

あざやか・なり「鮮かなり」(形動ナリ活)
一り入用V 六⑬

一に八用V 五⑫ 五⑬ 五⑭ 五⑮ 五⑯ 五⑰ 五⑱ 五⑲ 五⑳

あさゆふ「朝夕」 一四⑨
あ・し「悪し」(形シク活) cf. よしあし
一しく八用V 一八⑦ 六⑯ 六⑰ 六⑱ 六⑲ 六⑳

あしがき「葦垣」 三六⑤
あしせん「阿私仙」 四⑧

あした「朝」cf. のわきのあした
一七② 三六⑤ 五⑫ 五⑬ 五⑭ 五⑮ 五⑯ 五⑰ 五⑱ 五⑲ 五⑳

あす「明日」 四③
あせ「汗」 一三②

あぜちのだいなこん「按察の大納言」
六九⑭

あぜちのだいなごんのうへ「按察の大納言の上」 六九⑭

あそび「遊び」 cf. てんじやうのあそび
あそ・ぶ「遊ぶ」 cf. ひきあそぶ・もてあそぶ

あだ・なり「徒なり」(形動ナリ活)
一に八用V 一〇⑫

あたらし「新し」(形シク活) cf. こと
あたらし
一しく八用V 八⑩
一しう八音便V 六⑭
一しき八体V 五⑧

あたり「辺」cf. おんあたり・わたり
三〇⑪ *三〇⑫ 六二⑦ 六二⑧

あ・つ「当つ」cf. おしあつ
あつ・む「集む」cf. かきあつむ
あてやか・なり「貴かなり」(形動ナリ活)
一に八用V 四①

あと「後」 八⑬ 八⑭ 九⑯ 九⑰ 九⑱ 九⑲ 九⑳
あと「跡」 一〇⑭ 四⑦ 五⑦ 五⑧ 五⑨ 五⑩ 五⑪ 五⑫ 五⑬ 五⑭ 五⑮ 五⑯ 五⑰ 五⑱ 五⑲ 五⑳
あとかた「跡形」 三②
あな(感) 五⑬
あながち・なり「強ちなり」(形動ナリ活)
一に八用V 六③ 一四⑥

あなづらは・し「侮らはし」(形シク活)
一しく八用V 五⑥
あなづ・る「侮る」cf. おもひあなづる

あなめ cf. あなめあなめ
あなめあなめ(連) *五九⑤
あに「兄」 五②

あね「姉」 五⑤
あねうへ「姉上」 四⑥ 四⑦ 四⑧ 四⑨ 四⑩ 四⑪ 四⑫ 四⑬ 四⑭ 四⑮ 四⑯ 四⑰ 四⑱ 四⑲ 四⑳

あねぎみ「姉君」 六九①
あねみや「姉宮」cf. うちのあねみや
一七⑦

あの「彼の」(連) 二〇⑧
あは・す「合はす」cf. うちあはす・おもひあはす・きこえあはす・ごらん
あははす・みあはす
あはせ「合はせ」cf. あはせ
あはひ「間」cf. おんあはひ
あば・る「荒る」(動下二段)
一れ八用V 三⑥

あはれ「哀れ」 四⑬ 四⑭ 四⑮ 四⑯ 四⑰ 四⑱ 四⑲ 四⑳
あはれ「哀れ」(感) *五九⑨ 五九⑩

あはれ・なり「哀れなり」(形動ナリ活)
あはれ八語幹V 三③ 六① *三⑫
一なり八用V 二⑬
一に八用V 三⑤ 五⑤ 一〇③ 一〇⑬

あはれ「哀れ」(感) *五九⑨ 五九⑩

あはれ「哀れ」(感) *五九⑨ 五九⑩

あはれ「哀れ」(感) *五九⑨ 五九⑩

あはれ「哀れ」(感) *五九⑨ 五九⑩

あはれ「哀れ」(感) *五九⑨ 五九⑩

あはれ「哀れ」(感) *五九⑨ 五九⑩

あはれ「哀れ」(感) *五九⑨ 五九⑩

5 自立語の部

あ・ふ「合ふ・逢ふ」《動四段》
 一ひ入用▽ 九¹⁴

あひむか・ふ「相向かふ」《動四段》
 一み入未▽ 九¹¹

あひ・みる「相見る」《動上一段》
 六¹⁴ 八¹⁸

一なる入体▽
 一七⁵ 二七¹² 三九¹¹ 四〇⁴ 四二¹²
 四三¹¹ 五七³ 五七⁶ 五八² 六八¹¹
 八⁴ 九¹²

一なれ入巴▽
 五⁶ 五² 五⁴ 六³ 六⁷

一なり入止▽
 二六¹¹ 二九⁸ 二九¹⁰ 三三³ 四二¹⁰
 四三³ 四三⁸ 五八¹⁰ 六三⁹ 六五⁹
 七〇⁹ 八三¹⁴ 八四² 九二²

一なり入止▽
 一六⁴ 一七⁵ 二六¹⁰
 二九¹⁰ 三三³ 三三¹⁰ 四二¹⁰
 四三³ 四三⁸ 五八¹⁰ 六三⁹ 六五⁹
 七〇⁹ 八三¹⁴ 八四² 九二²

一は入未▽ *五⁸ 九¹¹

一ひ入用▽ 三¹³ 三¹⁴ 四³ 六³
 六¹¹ 六¹¹

一ふ入体▽ *九¹⁴

あ・ふ「敢ふ」《動下二段》
 一へ入未▽ 四⁶ *八³

あふぎ「扇」 五¹²

あふぎのかぜ「扇の風」 *三⁷ 六⁷ 七¹¹

あふ・く「仰ぐ」《動四段》
 一ぎ入用▽ 三¹³

あふさかのせき「逢坂の関」 八⁷ 七¹

あふひ「葵」入巻名▽ 二⁶ 二²

あふひのうへ「葵の上」 一¹¹ 一¹³
 三⁹ 三¹²

あふみのうみ「近江の海」 八⁸

あま「尼」 四³ 六¹³

あま「蟹」 *二¹³ *三¹⁴ *三¹ 一¹

あまくだ・る「天下る」《動四段》
 一り入用▽ 四²

あますがた「尼察」 一³

cf. いあふ・かきあふ・かへりあふ
 ・つどひあふ・とひたつねあふ・に
 くみあふ・みだれあふ・むまれあふ
 ・めぐりあふ・ゆきあふ

あまた「教多」《副》 一⁹ 一¹⁶ 五⁶
 五¹⁴ 六⁷ 七³ 七⁹ 五⁴
 五⁶ 九¹¹ 九¹⁴

あまつをとめ「天つ乙女」 七¹⁴

あまのかるも「海人の荻藻」入作品名▽
 六⁹ 六¹⁰ 六¹⁰

あまのと「天の戸」 *四³ 六⁶

あまのはしだて「天の橋立」 *八⁹

あまよのおんものがたり「雨夜の御物語」 三³

あまよのしなざだめ「雨夜の品定め」
 一¹⁴ 五⁶

あまり「余り」 九¹⁰

あまり「余り」《副》 二⁹ 三² 六¹⁰

あまり「余り」《接尾》 cf. やそちあまり
 みとせ

あまりに「余りに」《副》 一⁷ 一¹¹
 三⁷ 三¹¹ 三¹² 四⁵ 五⁵
 五³ 六¹⁰ 六¹³ 七² 七²
 五⁶ 六³

あま・る「余る」《動四段》 cf. おもひあ
 まる

一る入体▽ 六¹²

あみだぶつ「阿弥陀仏」 cf. おもひあみだ

ぶつ

二三③

あみだぼとけ「阿弥陀仏」cf.あみだぶつ

あめ「雨」二九① *二九③

あや・し「賤し」《形シク活》

あやしハ語幹V 一四⑤ 七⑩ 一⑦

六⑩

あやにくだ・つ「生憎立つ」《動四段》

―ちハ用V 四九④

あやにく・なり「生憎なり」《形動ナリ活》

―なるハ体V 四六①

あやま・る「誤る」cf.おもひあやまる

あや・む「怪む」《動下二段》

―めハ用V 四三⑩

あゆみい・る「歩み入る」《動四段》

―りハ用V 三⑨

―るハ体V 二③

あゆみゆ・く「歩み行く」《動四段》

―くハ体V 二① 二⑨

あゆみよ・る「歩み寄る」《動四段》

―りハ用V 三⑤ 四④

あらし「嵐」*四七④ *四七⑥

あら・す「荒す」《動四段》

―しハ用V *三⑭

あらそ・ふ「争う」《動四段》

―ふハ体V 二九①

あらた・む「改む」《動下二段》

―めハ未V 一九③

―めハ用V 二②⑦

あらは・す「表はす・著はす・現はす・顕はす」《動四段》cf.かきあらはす・ききあらはす・きこえあらはす・みあらはす

―しハ用V 九⑬

―すハ体V 二⑥

あらは・る「現はる」《動下二段》

―れハ用V 四③ 四④①

あらまほ・し「有らまほし」《形シク活》

―しくハ用V 三⑥ 三③ 七①

―しきハ体V 三① 八⑩

―しけれハ已V 七⑭

あららか・なり「荒らかなり」《形動ナリ活》

―にハ用V 二⑭

あ・り「有り・在り」《動ラ変》cf.ここ

ろあり・ただありなり

―らハ未V 一〇⑫ 二⑥ 二② 二③⑪

一四⑧ 二〇③ 三③ 二六⑬ 二六⑭

二七⑤ *三⑦ 四⑫ 四⑫⑫ 四⑫⑩

*四七⑪ 四③ 五⑨ 五① 五⑫

*四⑬ 五⑫ 五⑦⑪ 六⑨ 六②

六④ 七② *六⑪ *六① 六④

六③ 九③ 九⑥ 九⑫

―りハ用V 五⑥ 九⑧ 二① 一四⑧

一五② 一五④ 一七② 二② 二六①

四⑭⑭ 四⑭⑭ 四⑭② 四⑭⑨ 四⑭⑪

*四⑬⑬ *四⑦⑨ *五⑨⑨ 五⑨③

五⑦⑦ 五⑨⑩ 五⑨⑩ 六① 六②②

*六③③ 七⑨⑨ *七⑩⑩ 八⑦⑦ 九⑬⑬

九③③

―りハ止V 四⑧ 五④ 九② 二④

三① 三⑪⑪ 六⑪⑪ 六①① 六①①

―るハ体V 二⑦ 八① 八② 八⑤

一〇① 一④② 一④⑦ 一⑥⑩ 一⑥⑭

一七④ 二⑭⑭ 二④④ 二⑪⑪ 三⑧⑧

二六③ 二六⑭⑭ 二六⑤⑤ 二九④④ 二九⑭⑭

三〇⑥ 三⑨⑨ 三①① 三②② 三④④

三⑩⑩ 三⑫⑫ 三③③ 三④① 三④③

三⑨⑨ 三⑧⑧ 三⑩⑩ 三③③ 三⑥⑥

三⑦⑦ 三⑤⑤ 三⑭⑭ 三⑧⑧ 三③③

7 自立語の部

ありあけのつき「有明の月」 *三四⑨
 ありあけのわかれ「有明の別れ」△作品
 名▽ 三③
 ありか「在り処」 *二③
 ありがた・し「有り難し」《形ク活》
 一く△用▽ 四⑨ 二七② 二⑭ 八五⑤
 一七② 八七⑧

ありあけ△ 一三⑩ 四⑤ 五⑫ 五②
 六⑥ 六⑪ 六⑦ 六⑤ 八④ 八②
 八⑨
 一れ△已▽ 六⑪ 八⑪ 一〇⑬ 二⑭
 一四⑤ 一七④ 一七⑦ 一八⑤ 二七③
 二七⑭ *二八⑬ 三⑤ 四⑬ 四①
 四③ 四⑫ 四⑦ 四⑫ *四七⑨
 *四七⑬ 五⑦ 五⑥ 六⑧ 六⑬
 六⑩ 七③ 七② 八⑫ 八④
 ありあけ「有明」 八⑦
 ありあけのつき「有明の月」 *三四⑨
 ありあけのわかれ「有明の別れ」△作品
 名▽ 三③
 ありか「在り処」 *二③
 ありがた・し「有り難し」《形ク活》
 一く△用▽ 四⑨ 二七② 二⑭ 八五⑤
 一七② 八七⑧

ありあけ△ 一三⑩ 四⑤ 五⑫ 五②
 六⑥ 六⑪ 六⑦ 六⑤ 八④ 八②
 八⑨
 一れ△已▽ 六⑪ 八⑪ 一〇⑬ 二⑭
 一四⑤ 一七④ 一七⑦ 一八⑤ 二七③
 二七⑭ *二八⑬ 三⑤ 四⑬ 四①
 四③ 四⑫ 四⑦ 四⑫ *四七⑨
 *四七⑬ 五⑦ 五⑥ 六⑧ 六⑬
 六⑩ 七③ 七② 八⑫ 八④
 ありあけ「有明」 八⑦
 ありあけのつき「有明の月」 *三四⑨
 ありあけのわかれ「有明の別れ」△作品
 名▽ 三③
 ありか「在り処」 *二③
 ありがた・し「有り難し」《形ク活》
 一く△用▽ 四⑨ 二七② 二⑭ 八五⑤
 一七② 八七⑧

ありあけ△ 一三⑩ 四⑤ 五⑫ 五②
 六⑥ 六⑪ 六⑦ 六⑤ 八④ 八②
 八⑨
 一れ△已▽ 六⑪ 八⑪ 一〇⑬ 二⑭
 一四⑤ 一七④ 一七⑦ 一八⑤ 二七③
 二七⑭ *二八⑬ 三⑤ 四⑬ 四①
 四③ 四⑫ 四⑦ 四⑫ *四七⑨
 *四七⑬ 五⑦ 五⑥ 六⑧ 六⑬
 六⑩ 七③ 七② 八⑫ 八④
 ありあけ「有明」 八⑦
 ありあけのつき「有明の月」 *三四⑨
 ありあけのわかれ「有明の別れ」△作品
 名▽ 三③
 ありか「在り処」 *二③
 ありがた・し「有り難し」《形ク活》
 一く△用▽ 四⑨ 二七② 二⑭ 八五⑤
 一七② 八七⑧

いかばかり「如何ばかり」《副》 四〇

一三③ 七〇⑩ 九〇⑥

いきい・づ「生き出づ」《動下二段》

一で八用 五〇⑨

い・く「生く」《動四段》

一く八止 五三⑥「行く」ヲカケル

い・く「行く」《動四段》

一か八未 四三⑫

いくとせ「幾年」 九⑪

いくの「生野」 六二⑨

いささか「聊か」《副》 五五②

いさ・む「諫む」《動下二段》

一め八未 三〇④

いさや《感》 二四④

いさよひのつき「十六夜の月」 五三④

いしやま「石山」 三三⑥

いせ「伊勢」△地名 一六③ 三六⑦

いせ「伊勢」△作品名 三三⑭

いせのたいふ「伊勢の大輔」 八五⑧

いせのみやすどころ「伊勢の御息所」

八五⑪

いせものがたり「伊勢物語」 三三⑨

三三⑪

いた・し「甚し」《形ク活》

一く八用 二四⑬ 二六⑦ 二九⑩ 五九④

三三① 九一①

一かり八用 三三⑤

一き八体 五九⑧

いた・し「痛し」《形ク活》 cf. かたはら

いたし

一く八用 五九⑩

いだしい・る「出し入る」《動下二段》

一れ八用 五九⑧

いだした・つ「出し立つ」《動下二段》

一て八未 五七⑦

いだ・す「出だす」《動四段》 cf. しいだ

す・つくりいだす・ひきいだす・み

いだす

一し八用 三三① 三五⑩ 九三④

いたづら・なり「徒なり」《形動ナリ活》

一に八用 一② 五三④

いたりな・し「至り無し」《形ク活》

一き八体 四二②

いた・る「至る」《動四段》

一ら八未 三六⑩ 三三②

一る八体 三三⑫ 三三⑦

いち「一」 cf. だいらいち

いちげいっく「一偈一句」 二四①

いちじつ「一日」 cf. しゃうぐわついち

じつ

いちでうのうへ「一条の上」 六七⑫

いちでうめん「一条院」 八〇④ 九一⑬

いちでうめんのにしたい「一条院の西

の対」 六四⑩

いちどに「一度に」《副》 五〇⑦

いちのおとど「一の大臣」 四二②

いちのまき「一の巻」 六二⑫

いちのみや「一の宮」 cf. せんないちの

みや

いちはや・し「逸速し」《形ク活》

一き八体 三三①

いちぶ「一部」 六八⑧ 七〇⑨

いちもんじ「一文字」 八九⑤

いつ「何時」《代》 五三⑫

い・づ「出づ」《動下二段》 cf. あくがれ

いづ・いきいづ・いひいづ・おきいづ

いづ・おほいづ・おもひいづ・かき

いづ・きこえいづ・こひいづ・さし

いづ・しいづ・たちいづ・たづねいづ

いづ・つくりいづ・とりいづ・にほひ

いづ・ひろめきいづ・まちいづ・み

いづ・めしづ・よみいづ・みせり

三② 三④ 三⑤ 三⑥ 三⑭

五⑥ 五⑧ 五⑨ 五⑫ 五⑬

七① 七⑫ 七⑬ 七⑭ 七⑰

七⑱ 七⑳ 七㉑ 七㉒ 七㉓

八⑧ 八⑪ 八⑫ 八⑬ 八⑭

八⑮ 八⑯ 八⑰ 八⑱ 八㉑

八㉒ 八㉓ 八㉔ 八㉕ 八㉖

八㉗ 八㉘ 八㉙ 八㉚ 八㉛

八㉜ 八㉝ 八㉞ 八㉟ 八㊱

八㊲ 八㊳ 八㊴ 八㊵ 八㊶

八㊷ 八㊸ 八㊹ 八㊺ 八㊻

八㊼ 八㊽ 八㊾ 八㊿ 九①

九② 九③ 九④ 九⑤ 九⑥

九⑦ 九⑧ 九⑨ 九⑩ 九⑪

九⑫ 九⑬ 九⑭ 九⑮ 九⑯

九⑰ 九⑱ 九㉑ 九㉒ 九㉓

九㉔ 九㉕ 九㉖ 九㉗ 九㉘

九㉙ 九㉚ 九㉛ 九㉜ 九㉝

九㉞ 九㉟ 九㊱ 九㊲ 九㊳

九㊴ 九㊵ 九㊶ 九㊷ 九㊸

九㊹ 九㊺ 九㊻ 九㊼ 九㊽

九㊾ 九㊿ 十① 十② 十③

十④ 十⑤ 十⑥ 十⑦ 十⑧

十⑨ 十⑩ 十⑪ 十⑫ 十⑬

十⑭ 十⑮ 十⑯ 十⑰ 十⑱

十㉑ 十㉒ 十㉓ 十㉔ 十㉕

六⑥

いと・む「挑む」《動四段》

―みへ用▽ 三⑨

いなば「稲葉」 三②

―びへ用▽ 七②

いにしへ「古へ」 *三⑥

い・ぬ「往ぬ」《動ナ変》

―なへ未▽ *七⑪

いのち「命」 cf. おんいのち

三⑪ *三⑯ 三⑳ 四⑪ 四⑫ 四⑬ 四⑭

*四⑰ *四⑱ 四㉒ 五⑪ 五⑫ 五⑬

いのり「祈り」 cf. おんいのり

いは「岩」 三⑭

いはうつなみ「石打つ波」へ作品名▽

三⑩

いはほ「葭」 五⑪

いはもるちゅうじゃう「岩漏る中将」

三⑨

いひ「言ひ」 cf. ものこひ

いひあ・ふ「言ひ合ふ」《動四段》

―へへへ用▽ 七⑱

いひい・づ「言ひ出づ」《動下二段》

―でへ用▽ 四① 七⑱ 八③

いひか・く「言ひ掛く」《動下二段》

―けへ用▽ 六⑫

いひきか・す「言ひ聞かす」《動下二段》

―せへ用▽ 一五⑦

いひくた・す「言ひ腐す」《動四段》

―しへ用▽ *六⑳

いひた・つ「言ひ立つ」《動四段》

―ちへ用▽ 六②

いひつく・す「言ひ尽す」《動四段》

―すへ止▽ 三⑥

いひつた・ふ「言ひ伝ふ」《動下二段》

―へへ用▽ 一三⑪

いひとど・む「言ひ止む」《動下二段》

―めへ用▽ 三②

いひなやま・す「言ひ悩ます」《動四段》

―しへ用▽ 五⑨

いひならは・す「言ひ慣らはす」《動四段》

―しへ用▽ 一〇⑬

いひはじ・む「言ひ始む」《動下二段》

―めへ用▽ 五③ 一四⑩

いひふち・す「言ひ触らす」《動四段》

―すへ用▽ 六⑫

いひまさぐ・る「言ひ弄る」《動四段》

―りへ用▽ 二四⑥

ーるへ体▽ 五二⑪
 いひや・る「言ひ遣る」《動四段》
 ーるへ体▽ 三六⑤
 い・ふ「言ふ」《動四段》 cf.ものいふ
 ーはへ未▽ 九三⑬ 一三① 一三② 一六②
 二五⑨ 三九⑪ 四九⑧ 五〇⑩ 五五⑨
 五九④ 六九⑥ 七七⑨ *七九⑤ 九三⑪
 九三⑫
 ーひへ用▽ 七九⑦ 七⑪ 一五⑨ 三⑨
 三④ 二六⑤ 三② 四〇③ 四三⑪
 四② *四六⑭ 四九⑬ 五〇④ 五七⑦
 五八⑦ 五八⑧ 六四④ 六六③ 六六⑬
 七〇⑩ 七六④ 八五⑦ 八七③ 九三③
 ーふへ止▽ 一〇⑬ 一四② 一四④ 一八⑥
 一八⑦ 一九① 三⑪ 三六⑨ 三七⑤
 四〇⑦ 四三④ 四四⑧ 四六④ 五〇⑭
 五三⑭ 五七③ 六二⑧ 六六⑧ 六九⑥
 七四⑦ 八六⑥ 八七⑧ 九三⑩
 ーふへ体▽ 四⑧ 四⑨ 八② 九②
 九⑪ 一〇⑧ 二④ 二⑬ 一七⑫
 一八⑤ 二六④ 三三⑧ 三三⑬ 四二⑪
 四三④ 四四④ 四四④ 四四⑪
 四七⑦ 五〇① 五〇① 五二② 五二⑫
 五三⑬ 五三⑬ 五五⑦ 五九⑨ 六三⑦

六二② 六三③ 六三⑩ 六七⑫ 六六⑤
 七① 七五⑫ 七六② 八〇⑦ 八⑥
 八⑧ 八八⑬ 八九① 八九② 九五⑨
 ーへへ已▽ 五⑨ 一〇⑩ 一三④ 一三⑦
 一四⑧ 一五④ 一五⑥ 一五⑦ 一五⑪
 一七⑧ 一七⑩ 一八④ 一八⑫ 二〇⑧
 二⑧ 三⑬ 三⑤ 二七② 二七⑧
 二七⑫ 四〇⑩ 四九③ 四九⑩ 五〇⑪
 五⑫ 五① 五七① 五七⑫ 五七⑫
 五八⑭ 五九⑫ 六⑤ 六① 六九⑩
 七⑥ 七⑪ 七⑤ 七⑨ 七⑬
 七五⑭ 七① 七④ 七七⑭ 七六②
 七九① 七九⑭ 八⑨ 八四⑦ 八九⑫
 九〇① 九④ 九⑫ 九三⑭
 いかかひな・し「言ふ甲斐無し」《形ク活》
 ーくへ用▽ 四②
 ーしへ止▽ 六③
 ーきへ体▽ 三⑪
 いふせ・し《形ク活》
 ーくへ用▽ 三⑥
 いへ「家」 cf.いへいへ
 いへいへ「家家」 五④
 いま「今」 cf.たたいま

六⑨ 六⑪ 七⑩ 八⑩ 八⑭ 二③ 三⑬
 二⑫ 二七② 二九① *三〇⑧ *三三⑧
 *三三⑭ 四〇⑤ 四⑨ 五九⑤ 六⑪
 六九⑪ 七① 八⑭ 八五⑫ 八七⑦
 *九③ 九③ *九⑭ 九三③ 九三⑭
 いまかくれみの「今隠れ蓑」へ作品名▽
 五九⑨
 いますこし「今少し」《副》 六⑭ 三③
 四⑬ 五⑬ 七① 七⑭ 八九⑭
 いまだ「未だ」《副》 一五⑤ 七⑭ 八八⑬
 いまだに「未だに」《副》 五⑨
 いまとりかへばやへ作品名▽ 五九⑧
 六〇③
 いまのよ「今の世」 一〇⑧ 五九⑧ 五九⑩
 三⑩ 七⑭ 九⑧ 九⑨
 いまは「今際」 *三⑥
 いまめか・し「今めかし」《形ク活》
 ーしくへ用▽ 七② 九②
 いまやう「今様」 四⑨
 いみ「忌み」 cf.おんいみ 六八①
 いみ・じ《形ク活》
 ーじからへ未▽ 三⑬ 六⑨
 ーじくへ用▽ 一〇② 一〇③ 一〇⑬
 二⑧ 三⑬ 一四⑧ 一八② 一九⑧

- うきふねのみみ「浮舟の君」 二六④
 うきみ「憂き身」 *三三⑧
 うきよ「浮き世・憂き世」 *三〇⑧
 *三三⑩ 四九⑫ 五〇⑬
 う・く「浮く」《動下二段》
 一け八用▽ 三〇④
 うけたまは・る「承る」《動四段》
 一り八用▽ 五八⑧ 八八⑫
 一る八体▽ 六二⑭
 うけば・る「受け張る」《動四段》
 一り八用▽ 五二③
 う・し「憂し」《形ク活》 cf. ここころう
 し・すぎうし・みまうし
 一き八体▽ *三三⑪ *四六⑭ *四七⑮
 *五〇④ *五六⑥
 うしろみ・す「後ろ見す」《動サ変》
 一し八用▽ 五二②
 うしろめた・し「後ろめたし」《形ク活》
 一き八体▽ 四九⑫
 う・す「失す」《動下二段》 cf. きえうす
 一せ八未▽ 六一① 八二②
 一せ八用▽ 三六⑥ 三九⑨ 四〇④ 五〇⑭
 *三〇⑩ *三六⑫ *三九⑮ *四〇⑰ *四二⑱
 うすすみこむも「薄曇衣」 *三二⑬
- うせ「失せ」 一七⑤ 一七⑦ 二六② 二七⑬
 二六⑥ 二六⑨ 三三⑤ 三三④ 三三④
 四一⑩ 五二② 五七③ 六六⑭
 うた「歌」 cf. おんびやうぶのうた・だ
 いのうた
 一四⑤ 三三⑫ 五三⑥ 五九② 五九④
 六〇② 六〇⑥ 六二⑪ 六七⑨ 六六⑤
 七三⑤ 七三⑥ 七三⑪ 七三⑬ 七四①
 七四⑩ 七四⑫ 七四⑬ 七四⑭ 七四⑮
 七五⑩ 八六⑧ 八七⑥ 八八②
 うたかず「歌数」 八二⑬
 うたて《副》 五七⑪ 六〇⑧
 うたて・し《形ク活》
 一けれ八已▽ 五七⑨ 六二⑨ 七五①
 うたども「歌ども」 cf. おんうたども
 七四⑧ 七四⑪ 七五⑥ 七五⑨ 七五⑩
 八二①
- うたのみち「歌の道」 八六⑨
 うた・ふ「歌ふ」《動四段》
 一は八未▽ 三三⑩
 一ひ八用▽ 三三④ 三六⑤ 五三⑬
 うたよみ「歌詠み」 三三⑪ 八〇⑧ 八二④
 うち「内」 cf. ここころのうち
 三〇⑩ 四〇⑥ 五〇⑥ 六六① 七三⑤ 七三⑬
- うち「内裏」 五〇⑭ 五五⑥ 六四⑫ 七〇⑧
 七四⑮
 うち「宇治」 六五⑤ (存疑)
 うちあ・く「打ち上ぐ」《動下二段》
 一げ八用▽ 六三⑬ 七〇⑥
 うちあは・す「打ち合はす」《動下二段》
 一せ八用▽ 五三⑫
 うちいで「打ち出で」 九八⑧ 壹③
 うちうなづ・く「打ち領く」《動四段》
 一き八用▽ 五五⑩
 うちお・く「打ち置く」《動四段》
 一き八用▽ 五二⑩
 うちおもひつづ・く「打ち思ひ続く」
 《動下二段》
 一け八未▽ 三三①
 うちおも・ふ「打ち思ふ」《動四段》
 一ひ八用▽ 三三③
 うちき・く「打ち聞く」《動四段》
 一か八未▽ 一四⑥
 うちくも・る「打ち曇る」《動四段》
 一り八用▽ 三六⑥
 うちささめ・く「動四段》
 一き八用▽ 三七⑦
 うちしき(存疑) 七三①

うちし・く「打ち頻く」《動四段》

―けへ入用 二六⑭

うち・す「打ち為」《動サ変》

―しへ入用 二七⑮ 二七⑯

うちず・す「打ち誦す」《動サ変》

―しへ入用 二六⑨

うちずん・ず「打ち誦んず」《動サ変》

―じへ入用 三〇⑭

うちと・く「打ち解く」《動下二段》

―けへ未用 二六④ 二六⑥

―けへ入用 二六④

うちなが・む「打ち眺む」《動下二段》

―めへ入用 二七⑨

うちな・く「打ち泣く」《動四段》

―きへ入用 二六⑮

うちなび・く「打ち靡く」《動四段》

―きへ入用 二六⑭

うちなみだく・む「打ち涙ぐむ」《動四段》

段)

―みへ入用 二二⑮

うちぬら・す「打ち濡らす」《動四段》

―しへ入用 二〇④

うちのあねみや「宇治の姉宮」 二八⑧

画④

うちのうへ「内裏の上」 三〇⑧

うちのおとど「内の大匠」 二六⑭ 二八③

画⑮

うちのかはなみ「宇治の河波」へ作品

名 二六⑩

うちのなかのみき「宇治の中の君」

二六②

うちのなかのみや「宇治の中の宮」

三〇⑥

うちのゆかり「宇治の縁」 一七⑥ 二七⑧

うちは「団扇」 画④

うちはこ・ぶ「打ち運ぶ」《動四段》

―びへ入用 二七③

うちはじ・む「打ち始む」《動下二段》

―めへ入用 二五⑫ 二五⑬ 四〇⑪ 五七④

うちはら・ふ「打ち払ふ」《動四段》

―ひへ入用 二六⑭ 二六⑮

うち・みる「打ち見る」《動上一段》

―みへ入用 二六⑭ 二七⑦

うちむか・ふ「打ち向かふ」《動四段》

―ひへ入用 二六⑭

うちわたり「内裏辺り」 二二⑭

うちわら・ふ「打ち笑ふ」《動四段》

―ひへ入用 二九① 二六⑧

う・つ「討つ」《動四段》

―ちへ入用 二六⑥

うつく・し「美し」《形シク活》

―しうへ音便 二九①

―しきへ入用 二六④

うつくしきども「美しきども」 二七③

うつしごころ「移し心」 *二六⑧ 二六⑨

うつせみ「空蟬」へ人名 二八② 二八④

うつせみの「空蟬の」(枕詞) *二六③

うつつ「現」 二七① 二七④

うつも・る「埋もる」《動下二段》

―れへ未用 *二八⑩

―れへ入用 二六⑤

うつほ「宇津保」 二五② 二九⑭ 二七⑪

うつりが「移り香」 *二六⑦

うつ・る「移る」《動四段》

―るへ止用 *二五③

うつろ・ふ「移ろふ」《動四段》

―ふへ入用 *二七⑩

うとま・し「疎まし」《形シク活》

―しへ止用 二七⑦

―しきへ入用 二四⑩

―しけれへ已用 二〇⑪

うとましげ・なり「疎まし気なり」《形

動ナリ活

一なるハ体V 四⑭

うなづ・く「顔く」cf.うちうなづく

うのはなかきね「卵の花垣根」三⑩

うはづつみ「上包み」三⑬

うへ「上・表」三⑥ 二⑩ 一九⑬ 四⑬

*三⑨ 六⑨ *六⑧

うへ「上」(禁中) cf.くものうへ

うへ「上」(尊称) cf.あせちだいなごん

のうへ・あねうへ・あふひのうへ・

いちでうのうへ・うちのうちへ・おん

うへ・くわんぱくのうへ・たいしや

うのうへ・なかのうへ・にでうのう

へ・むらさきのうへ・もとのうへ・

ろくろすくせのうへ・るんのうへ・

ゑもんのかみのうへ

六⑨

うまじ「孫」cf.むまじ

うま・る「生まるる」cf.むまる

うみ「海」cf.あふみのうみ

三①

うみお・く「生み置く」《動四段》

一きハ用V 二③

う・む「生む」《動四段》

一みハ用V 五⑨ 六⑦

一むハ体V 六⑫

うら「浦」一六⑦ 一六⑦ 一六⑦ *二六⑨

二六⑫ *二九⑫ 三⑬ 一六⑫

うらづた・ふ「浦伝ふ」《動四段》

一ひハ用V 一六⑦

うらと・く「心解く」《動下二段》

一けハ用V 三④ 三⑤

うらな・し「心無し」《形ク活》

一くハ用V *三③

うらなみ「浦波」三② *二④

うらは「裏葉」cf.ふぢのうらは

うらみ「恨み」六⑥

うら・む「根む」《動四段》

一みハ用V *三⑦

うらめ・し「恨めし」《形シク活》

一しハ止V *五②

一しきハ体V 二⑤ *七⑪ 四九⑭

うらやま・し「羨まし」《形シク活》

一しくハ用V 二⑧ 八⑦ 八⑦

一しハ止V 三⑭

一しきハ体V 二⑥ 二七⑧

一しけれハ已V 四⑫

うりんるん「雲林院」九⑨

うるさ・し「煩し」《形ク活》

一しハ止V 三⑩

一きハ体V 三⑦ 二七④ 二七⑫

うるはしだ・つ「麗し立つ」《動四段》

一ちハ用V 二②

うれ・し「嬉し」《活シク活》

一しからハ未V 七⑥

一しくハ用V 二③ 四③ 九⑭ 一〇②

四⑨ 五⑧

一しきハ体V 一七③ 五⑦ 五⑪

一しけれハ已V 四④ 五④ 六④

六⑭

うれ・ふ「憂ふ」《動下二段》

一へハ用V 四②

うゑもんのかみ「右衛門の督」cf.ゑもん

のかみ

うゑわた・す「植ゑ渡す」《動四段》

一しハ用V 三⑩

うりんるん「雲林院」cf.うりんるん

え

え「得」《副》一六② 二四⑩ 七⑤

えうし「存疑。」「要事」敷一三④

えだ「枝」*⑩⑫

えら・ぶ「選ぶ・撰ぶ」《動四段》

―びへ用▽ ㊦④ ㊦⑥

―ぶへ用▽ ㊦⑭ ㊦⑰

えん「宴」cf. はなのえん

三⑩

えん「縁」㊦④ ㊦⑪ ㊦⑯ ㊦⑰ ㊦⑱

えん「艶」一六⑭ 三④ ㊦⑨

えんぎ「延喜」一〇⑦ 六②

えん・なり「艶なり」《形動ナリ活》

―にへ用▽ 二② 二③ 一七② 四⑩⑫

お

おい「若い」㊦①

おいおとろ・ふ「若い衰ふ」《動下二段》

―へへ用▽ 三⑦

おいくわんぱく「若い関白」四⑤⑪

おいらか・なり《形動ナリ活》

―ならへ未▽ 六⑥

おきい・づ「起き出づ」《動下二段》

―でへ用▽ 五④ 五⑥④

おく「奥」五⑤ 五⑥④

お・く「置く」《動四段》cf. うちおく・

うみおく・かきおく・さしおく・と

ころおく・とめおく・みおく

―かへ未▽ ㊦⑤ ㊦⑥

―きへ用▽ ㊦①

―くへ用▽ *㊦⑦⑧

おくふか・し「奥深し」《形ク活》

―くへ用▽ 五① 五④

おくやま「奥山」*六②⑥

おくゆか・し「奥床し」《形シク活》

―しくへ用▽ 二⑪ 六⑭

おく・る「後る」《動下二段》cf. ころ

おくる・なさけおくる

―れへ用▽ 二⑦ 二⑧ 九⑪

―るへ止▽ 三⑫

おこ・す「遣す」《動下二段》cf. みおこ

―せへ用▽ 四③

―するへ用▽ 三⑬

おこた・る「怠る」《動四段》

―りへ用▽ 六⑧

おこなひ「行なひ」一四⑨ 四⑲ 六①

おこなひつと・む「行なひ勤む」《動下

―めへ用▽ 三⑬

おさん「御座」六⑥

おしあ・つ「押し当つ」《動下二段》

―てへ用▽ 四⑤ 五⑨

おしす・る「押し擦る」《動四段》

―りへ用▽ 七⑩

おしはか・る「押し量る」《動四段》

―らへ未▽ 二⑪ 二⑯ 五⑪ 六⑯

お・す「押す」《動四段》

―さへ未▽ 五⑥

おそれ「恐れ」一四⑧

おそろ・し「恐し」《形シク活》cf. もの

おそろし

―しくへ用▽ 四⑧

―しへ止▽ 五⑭

―しきへ用▽ 五⑬ 六⑯ 七⑮

おだ・し「隠し」《形シク活》

―しきへ用▽ 四⑬

おちばのみや「落葉の宮」二五⑦ 元⑫

おちははか・る「怖ろ憚る」《動四段》

―りへ用▽ 二④

お・つ「落つ」《動上二段》

—つるへ体▽ 一七^⑭ *三^⑦ *八^⑥
 おと「音」cf.かねのおと
 四^⑥ *三^⑨ 三^④ 三^⑫ 六^①
 おとつと「妹」cf.おんおとつと
 おとなき「音聞き」四九^①
 おと・す「落す」《動四段》cf.おもひおとす
 おど・す「威す」《動四段》
 —しへ用▽ 三^⑤
 おとと「弟・妹」三六^④ 六九^②
 おとど「大臣・大殿」cf.いちのおとど・うちのおとど・おほうちやまのおとど・げんじのおとど・ちちおとど
 三^⑭ 三^⑨ 三^③ 二九^⑩ 四^③
 突^② 四^⑧ 四^⑩ 五^⑩ 五^⑦
 おとどたち「大臣達」一^⑭
 おとな・し「大人し」《形シク活》
 —しきへ体▽ 七^⑦
 おとり「劣り」cf.こころおとり
 おと・る「劣る」《動四段》
 —らへ未▽ *二^⑨ 一^⑪ 六^⑧
 —りへ用▽ 二^① 五^⑥ 二^④
 —るへ体▽ 六^⑤
 おどろきわた・る「驚き渡る」《動四段》

—りへ用▽ 六^⑫
 おどろ・く「驚く」《動四段》
 —くへ止▽ 六^⑪
 おどろ・ふ「衰ふ」《動下二段》cf.おいら
 おどろふ
 —へへ未▽ 六^⑬
 おどろへ「衰へ」二^③
 おな・じ「同じ」《形シク活》
 —じへ体▽ 四^⑩ 九^④ 三^① *三^②
 *四^⑬ 五^② 五^⑭ 七^⑧ 三^④
 おなじくは「同じくは」《副》七^③
 突^①
 おなづ・く「頷く」《動四段》
 —きへ用▽ 四^⑮
 おのおの「各」《名・副》八^① 二六^⑨
 六^⑬ 六^② 八^④
 おのがじし「己がじし」二六^⑨
 おのづから「自ら」《副》六^④ 三^⑫
 六^③ 五^①
 おはしつ・く「在し着く」《動四段》
 —きへ用▽ 三^⑬
 おはしま・す「御座します」《動四段》
 —さへ未▽ 五^⑮
 —しへ用▽ 四^② 六^③ 七^⑥

—せへ已▽ 三^③ 三^⑥
 おはしま・す「御座します」《補動四段》
 —さへ未▽ 九^⑤ 五^② 五^③ 六^⑥
 —しへ用▽ 二^⑧ 八^⑬ 八^⑩ 八^⑭
 六^① 六^② 六^④ 九^① 九^②
 五^⑤
 —すへ止▽ 八^⑭ 二^④
 おは・す「御座す」《動サ変》
 —せへ未▽ 一^④
 —しへ用▽ 二九^⑫ 三^⑪ 三^① 四^④
 四^②
 —するへ体▽ 一^⑭ 三^⑫ 三^⑬
 四^②
 おは・す「御座す」《補動サ変》
 —しへ用▽ 二^⑫ 四^⑨
 —するへ体▽ 一^⑬ 二^⑩ 四^⑬
 おひしげ・る「生ひ茂る」《動四段》
 —るへ体▽ 五^⑮
 おびた・し「移し」《形シク活》
 —しくへ用▽ 五^⑫ 六^⑥ 九^⑨
 —しきへ体▽ 五^① 五^②
 おひのほ・る「生ひ上る」《動四段》
 —らへ未▽ 五^⑮
 おひわた・る「生ひ渡る」《動四段》

ーりへ用V 三②

お・ふ「生ふ」《動上二段》

ーひへ用V *五⑤ 七⑦ 八①

ーふるへ用V 五七⑪

おほうちやま「大内山」 *三④

おほうちやま「大内山」へ人名V 三⑪

おほうちやまのおとど「大内山の大臣」

三② 三⑫ 五⑦

おほえ「覚え」一八⑩ 五② 八④

おほえやま「大江山」 *二⑨

おほかうじ「大柑子」 五⑥

おほかがみ「大鏡」へ作品名V 六②

おほかた「大方」《副》 三⑭ 三⑩

八⑫

おほき・なり「大きなり」《形動ナリ活》

ーなるへ用V 五⑭

おほさ「多さ」 六⑥

おほ・し「多し」《形ク活》

ーからへ用V 七⑧ 六①

ーくへ用V 二⑤ 三⑪ 八⑭ 一〇④

一五⑭ 一七④ 三② 五⑨ 五⑥

五⑨ 七③ 七⑬ 七⑫ 七③

八⑤⑦ 九③ 九⑦ 九⑪

ーかりへ止V 二① 四⑭ 六⑧

六⑦

ーかるへ用V 九② 九⑥ 一五⑥ 二⑨

五⑤ 三①

ーかへ用V 七⑪

ーかれへ已V 一七③ 七⑭ 八⑫

六②

おほ・し「覚し」《形シク活》

ーしきへ用V 五⑫

おほしい・づ「思し出づ」《動下二段》

ーでへ用V 三⑦ 三⑪

おほしい・る「思し入る」《動四段》

ーりへ用V 二② 四⑪

おほしす・つ「思し捨つ」《動下二段》

ーてへ用V 四①

おほしつづ・く「思し続く」《動下二段》

ーけへ用V 五⑨

おほしときめか・す「思し時めかす」

《動四段》

ーさへ用V 二②

おほしとち・む「思し閉ちむ」《動下二段》

段

ーめへ用V 六⑫

おほしなぐさ・む「思し慰む」《動四段》

ーみへ用V 六⑪

おほしのど・む「思し和む」《動下二段》

ーめへ用V 四⑭

おほしめ・す「思し召す」《動四段》

ーさへ用V 五④ 五⑤ 六⑭ 八⑥

六⑥

ーしへ用V 八⑬ 六⑪

おほしわ・ぶ「思し佗ぶ」《動上二段》

ーびへ用V 三⑫

おほ・す「仰す」《動下二段》

ーせへ用V 三⑩ 一五⑧ 一七⑭ 二七⑪

四⑨ 四⑨ 五⑪ 五② 八③

八⑨ 八⑪

おほ・す「思す」《動四段》

ーさへ用V 八① 二⑨ 一六⑪ 三①

三② 四⑥ 四⑨ 六②

ーしへ用V 二⑫ 二⑥ 六③ 八⑩

五⑭ 五⑦ 五⑬

ーすへ止V 三⑦

おほちのそう「祖父の僧」 二⑩

おほつかなさ「覚束なさ」 三③

おほどか・なり「形動ナリ活》

ーにへ用V 六①

おほど・く《動四段》

ーきへ用V 三⑬

おほにでうどの「大一条殿」 六二②
おほにでうどののむすめ「大一条殿の

女」 六四⑭

おほはらののぎやうかう「大原野の行

幸」 六七⑬

おほみや「大宮」 四二⑩ 五〇⑥ 五五④

おほみやびと「大宮人」 五二⑫

おほやけごと「公事」 三三⑦

おほ・ゆ「覚ゆ」《動下二段》 cf. みおほ

ゆ・ものおほゆ

一え八未▽ 五⑦ 一三⑤ 一三⑫ 一五④

三⑥ 二四⑧ 二七⑪ 六〇⑨ 六二⑩

六五⑪ 七〇① 七六⑥ 八三② 九二⑦

九三① 九三⑤

一え八用▽ 八⑬ 二五⑤ 二二⑩ 一四⑥

三〇① 四〇⑪ 五〇⑭ 六三⑥ 七〇⑧

七五④ 七五⑭ 七五① 七五⑥ 七五⑧

七五⑭ 八二⑤ 八二① 八二⑤ 八四⑨

八六⑥ 八六⑥ 八六① 八六④ 八六④

六四④ 六四⑥

一ゆ八止▽ 三三⑬ 三三⑦ 三三③ 六三⑬

一ゆる八体▽ 九⑧ 二二③ 二二⑦

二二⑨ 二二⑫ 二五⑩ 一九④ 三〇⑨

三〇⑨ 三二① 三二⑦ 三三⑥ 三六③

*六④ 四〇⑭ 四四⑪ 五三⑤ 五三③

五三⑫ 八〇⑨ 八⑥

一ゆれ八已▽ 四⑨ 一〇② 一〇⑬

二四⑬ 二四⑭ 一六② 三〇⑨ 四〇④

四六⑭ 三三⑧ 七〇② 七九⑨ 八二⑫

八五⑭

おほよそ・なり「大凡なり」《形動ナリ

活》

一に八用▽ 六⑦

おほろづきよ「朧月夜」 三三⑬

おほろづきよのないし「朧月夜の内侍」

三三⑬

おほろづきよのないしのかみ「朧月夜の

尚侍」 一七⑫

おまへ「御前」 cf. おんまへ

三三⑬ 六四②

おもかけ「面影」 二② *三三⑪

おもしろ・し「面白し」《形ク活》

一く八用▽ 三⑥ 一六② 一七①

一き八体▽ 一六③

おもて「面」 cf. ひたおもて・みなみお

もて

おもてのなみ「面の浪」 一⑩

おもは・し「思はし」《形シク活》

一しから八未▽ 三〇⑬

おもはしげ・なり「思はし気なり」 cf.

ものおもはしげなり

おもはず・なり「思はずなり」《形動ナ

リ活》

一に八用▽ 六⑬ 七⑥ 五④ 五②

六九④ 九③

一なる八体▽ 二五⑧

おもひ「思ひ」 *三⑧ 六四⑦ *五⑨

三二②

おもひあなづ・る「思ひ悔る」《動四段》

一り八用▽ 九③

一る八体▽ 六⑫

おもひあは・す「思ひ合はす」《動下二段》

一せよ八命▽ 六⑫

おもひあま・る「思ひ余る」《動四段》

一り八用▽ 三⑥

一る八体▽ 三⑫

おもひあやま・る「思ひ誤る」《動四段》

一り八用▽ 三⑫

おもひい・づ「思ひ出づ」《動下二段》

一で八未▽ 三⑫ 五⑧⑦

一で八用▽ 三⑨ 六①

おもひいで「思ひ出で」 一③ 一三⑬

㊦⑥ ㊦⑨

おもひい・る「思ひ入る」《動四段》

―り入用V 三三⑫ 三三⑬

おもひおと・す「思ひ落す」《動四段》

―し入用V 三七④

おもひか・く「思ひ懸く」《動下二段》

―け入用V 六六④

―け入用V 六六⑤

おもひかた・む「思ひ固む」《動下二段》

―め入用V 四六③

おもひかは・す「思ひ交はず」《動四段》

―し入用V 三三③ 四六②

おもひくん・ず「思ひ屈す」《動サ変》

―じ入用V 三二②

おもひしづ・む「思ひ沈む」《動四段》

―み入用V 四六⑫

おもひし・む「思ひ染む」《動下二段》

―め入用V 四九⑬

おもひし・る「思ひ知る」《動四段》

―ら入用V 六四④ 一一⑪ 二二⑧ 四八⑧

四九⑭ 六二⑦ 七九③

―り入用V 六〇⑩ 八〇⑩

おもひす・す「思ひ過す」《動四段》

―さ入用V 四九⑨

おもひそ・む「思ひ初む」《動下二段》

―め入用V 一八①

―め入用V 三三⑥

おもひた・つ「思ひ立つ」《動四段》

―つ入用V 四九③

おもひた・ゆ「思ひ絶ゆ」《動下二段》

―え入用V 四九⑤ 四九⑨

おもひた・る「思ひ足る」《動四段》

―ら入用V 三二② 三二⑫

おもひつづ・く「思ひ続く」cf.うちおもひつづく

―め入用V 六六①

おもひどころ「思ひ所」二四①

おもひと・む「思ひ止む」《動下二段》

―め入用V 四二⑨

おもひなび・く「思ひ靡く」《動四段》

―き入用V 四二⑨

おもひのど・む「思ひ和む」《動下二段》

―む入用V 四二②

おもひのほか「思ひの外」三三⑩

おもひは・つ「思ひ果つ」《動下二段》

―つ入用V 四六⑥

おもひひと「思ひ人」三三①

おもひみだ・る「思ひ乱る」《動下二段》

―れ入用V 三三④

―る入用V 三三⑩

おもひや・る「思ひ遣る」《動四段》

―ら入用V 三二② 三三⑬ 八〇⑩ 四四⑨

―り入用V 三三⑥

―る入用V 六六②

おもひよ・る「思ひ寄る」《動四段》

―り入用V 六六① 五九⑦

―る入用V 三三④

おもひよわ・る「思ひ弱る」《動四段》

―る入用V 六六①

おも・ふ「思ふ」《動四段》cf.うちおもふ・ものおもふ

―は入用V 二二⑨ 四二⑩ 四六⑫

三二⑦ 三三① 三三③ 六六⑥ 八二②

四四① 四四⑩ 八九⑤ 八九⑤

―ひ入用V 三二① 二四⑧ 二五⑧ 三三⑨

三七⑭ 三九⑨ 四二⑤ 五二⑧ 六二⑤

六九② 七二⑫ 七三④ 七五① 七五⑤

七六⑬ 八三⑥ 八五⑤ 八九⑦ 九二⑫

八九④

―ふ入用V 二二⑭ 三九⑥ 六二⑥ 六二⑬

21 自立語の部

- *三二⑫
 一ふへ入体▽ ②② 六⑬ 二〇⑨ 二二⑪
 一三⑭ 一六⑮ 三三⑭ 二四③ 二五⑥
 二六⑫ 二六⑭ *三二④ 三三⑥ 四四⑩
 四九⑫ *三三⑨ 五〇① 六⑥ *六⑦⑪
 八二① 八二① 八七② 八九⑦
 一へへ入已▽ ①② 二⑫ 二⑬ 二⑭ 二⑮
 一四⑫ 一四⑫ 一四⑭ 一七⑬ 二五⑬
 *三三⑪ 四二② 五二⑬ 五三⑧ 五三⑬
 八九④
- おもほ・ゆ「思ほゆ」《動下二段》
 一えへ入未▽ *八⑥
- おもむき「趣」 三三⑥ 六九⑪
- おもむ・く「赴く」《動四段》
 一きへ入用▽ 二⑨ 一六⑦
- おもや・す「面瘦す」《動下二段》
 一せへ入用▽ 二九⑭
- おや「親」 cf. さうのおや・のちのおや
 三〇⑧ 五七④ *八②⑥ *八①④ *八①④
- およびがた・し「及び難し」《形ク活》
 一くへ入用▽ 五②
- およ・ぶ「及ぶ」《動四段》 cf. みえおよぶ
 一ばへ入未▽ 九⑩ 三三① 三三⑭ 七二⑫
- 三⑭⑭ 八〇⑧ 九⑨
 一びへ入用▽ 五⑫⑭ 五⑬⑭
 お・る「下る」《動四段》
 一りへ入用▽ 三三⑪
 おるおる《副》 二七⑩ 三三⑨
 おるか・なり「愚かなり」《形動ナリ活》
 一ならへ入未▽ 一九⑭
 一なりへ入止▽ 三三④ 三三①
 一なるへ入体▽ 一三⑤ 七〇⑦ 七二⑫
 三⑩⑩
- おろし「下ろし」 五①
 おろ・す「下ろす」 cf. かしらおろす・
 とりおろす
- おんあたり「御辺り」 五②
 おんあはひ「御間」 四七②
 おんありさま「御有様」 八九⑥ 八九⑩
 二⑭⑭ 五⑥⑥
 おんいでたち「御出で立ち」 一六③
 三⑦⑦
- おんいのち「御命」 九二⑩
 おんいのり「御祈り」 六⑥⑥
 おんいみ「御忌み」 二九⑧ 三二⑩
 おんいらへ「御答へ」 三三⑫
 おんうたども「御歌ども」 九二⑫
- おんうへ「御上」 六②②
 おんおとうと「御妹」 九②⑥
 おんかうどの「御神殿」 四⑤⑤
 おんかげども「御影ども」 二⑤⑤
 おんかた「御方」 cf. あかしのおんかた・
 さいぐうのおんかた・ちゅうぐうの
 おんかた・ひめぎみのおんかた
 四⑤⑤ 三③③
 おんかたがた「御方方」 三②② 三九⑤
 三②②
- おんかへし「御返し」 八三⑦
 おんかへり「御返り」 三三② 三三⑩
 おんかへりごと「御返り事」 五〇②
 三④④ 三⑪⑪ 五②②
- おんきそく「御気色」 四六①
 おんくだり「御下り」 三六④
 おんくらゐ「御位」 四三⑬ 六三②
 おんくるま「御車」 三三⑪ 五④④
 おんけさうぶみ「御懸想文」 四④④
 おんけしき「御気色」 三三⑧
 おんこ「御子」 一九⑨ 二六⑬ 四四⑭
 おんこごち「御心地」 九⑥⑥
 おんこころ「御心」 cf. みこころ
 三⑭⑭ 三⑩⑩ 三三⑪⑪ 二⑥⑥ 二④⑦

おんこころがまへ「御心構へ」 三〇⑥
 おんこころがら「御心柄」 八九①
 おんこころさし「御志」 九〇②
 おんこころもちる「御心用の」 四一①
 四七④
 おんこと「御事」 三〇⑦ 三三⑭ 三四②
 三四⑩ 三五⑪ 四四④ 四四⑫ 八九⑧
 九二⑧
 おんさいはひ「御幸ひ」 二〇⑦ 九二⑩
 おんさかつき「御盃」 cf.きんのおんさ
 かづき
 おんさかな「御肴」 九二⑥
 おんさま「御様」 二〇③ 二〇⑧ 二六②
 四八⑤
 おんさわがれ「御騒がれ」 三九⑥
 おんしつらひ「御しつらひ」 三三⑫
 おんしのびありき「御忍び歩き」 三三⑭
 おんすずり「御硯」 三七④ 三七④
 おんすまひ「御住まひ」 一六⑥ 三三④
 おんぞ「御衣」 二六⑪ 三三⑤ 八⑭
 一三⑧
 おんたびずみ「御旅住み」 二二⑦
 おんため「御為」 四九②

おんつかひ「御使ひ」 二二⑫ 四三③
 四三③ 六三③
 おんてならひども「御手習ひども」
 二九⑩
 おんとき「御時」 五⑭ 一〇⑦ 一五⑪
 四三⑩ 六〇⑤ 六六② 八七③
 おんとき・す「御伽す」《動サ変》
 一しへ用V 七⑧
 おんとく「御徳」 七④
 おんとし「御年」 五⑥
 おんなか「御仲」 二四⑨ 三九⑦
 おんにほひ「御匂ひ」 三六⑤
 おんはかまぎ「御袴着」 六六②
 おんはは「御母」 五⑬
 おんはら「御腹」 二六⑭
 おんはらから「御同胞」 二四⑨
 おんはらからたち「御同胞達」 六六③
 おんはらのきみ「御腹の君」 一八⑬
 おんびやうぶのうた「御屏風の歌」
 六六②
 おんびん「御鬢」 二九⑭
 おんふみ「御文」 三三⑬ 三三⑥ 五二⑪
 三三⑥
 おんふみども「御文ども」 三三④

おんふるまひ「御振舞ひ」 六六⑪
 おんほど「御程」 七①
 おんまへ「御前」 cf.おまへ
 三九⑨ 三九⑦
 おんみ「御身」 四三⑪ 九二⑫
 おんみき「御神酒」 六五⑤
 おんみめ「御眉目」 六〇①
 おんむこ「御婿」 二六⑦
 おんむまこ「御孫」 cf.きんたふのだい
 ながんのおんむまへ
 おんめ「御目」 九二⑪
 おんもと「御許」 三六⑩ 四二⑫ 四三③
 おんものいみ「御物忌み」 三九⑤
 おんものがたり「御物語」 cf.あまよの
 おんものがたり
 おんやしる「御社」 cf.かものしものお
 んやしる
 おんゆゑ「御故」 五②
 おんようい「御用意」 六五⑧
 おんよのなか「御世の中」 六〇⑬
 おんわざ「御業」 二六⑩ 六〇⑦

か

- か「処」 cf. ありか・すみか
 か「香」 cf. うつりが・みゃうがうのか
 五九⑭ 五〇②
- かう「香」 cf. ふだんかう
 かうい「更衣」 cf. きりつばのかうい
 かうし「格子」 cf. みかうし
 かうじ「柑子」 cf. おほかうじ
 かうじじゅうのないし「江侍従の内侍」
 六五②
- かうどの「神殿」 cf. おんかうどの
 かうばい「香し・芳し」《形シク活》
 一しく八用 V 五〇②
- かえむず八作品名 V 五④
 かがけつく・す「揚げ尽す」《動四段》
 一しく八用 V 五④
- かかづらひあり・く「拘ひ歩く」《動四段》
 一しく八用 V 一三
- かがみ「鏡」 一〇⑪ *三〇③ *三〇⑤ 五⑫
 かがり「斯有り」《動ラ変》
 一しく八用 V 五七⑬
- 一る八体 V 五② 九③ 九⑥ 二〇⑧
 三⑫ *五③ *六⑩ *六⑫ 四七⑨
 六〇⑧ 六〇⑩ 六一① 六一⑪ 八八⑭
 五五⑤ 五五⑥
- 一れ八命 V *五④
 かか・る「掛かる」 cf. とりかかるとよ
 りかかるとよ
 かきあつ・む「書き集む」《動下二段》
 一め八用 V 七③
- かきあ・ふ「掻き合ふ」《動四段》
 一ひ八用 V 五⑫
 かきあらは・す「書き表はす」《動四段》
 一さ八未 V 六⑬
 一しく八用 V 六⑦
- かきい・づ「書き出づ」《動下二段》
 一で八用 V 一②
 かきお・く「書き置く」《動四段》
 一き八用 V 八③
- かきかは・す「書き交はす」《動四段》
 一さ八未 V 四⑥
 かきくら・す「掻き暗す」《動四段》
 一す八体 V *五⑨
- かきさ・す「書き止す」《動四段》
 一しく八用 V 三⑥
- かきしる・す「書き記す」《動四段》
 一しく八用 V 八①
 かきつく・す「書き尽す」《動四段》
 一しく八用 V 九⑭
- かきつた・ふ「書き伝ふ」《動下二段》
 一へ八未 V 二〇⑨ 五⑥
 かきつ・む「掻き集む」《動下二段》
 一め八用 V *五② (一)かき(二)書き
 ヲカケル)
- かきとど・む「書き留む」《動下二段》
 一め八未 V 七⑨
 一む八止 V 八⑤
 一むる八体 V 七⑤
- かきね「垣根」 cf. うのはなかきね
 *三⑭
- かきのもと「垣の本」 五⑦
 かきはなる「掻き離る」《動下二段》
 一れ八用 V 九⑪
- かきま・す「掻き雑す」《動下二段》
 一ぜ八未 V 五⑩
 かきもら・す「書き洩らす」《動四段》
 一しく八用 V 一四①
- かぎり「限り」 一六⑫ 二七⑭ *八⑬
 三④ *五⑥ *四九⑦ *四九⑨ 八④

六七〇

かぎりな・し「限り無し」《形ク活》

―くハ用▽ 三〇⑪ 四六⑦ 四九⑪ 五二⑧

八九〇 六五〇

かぎ・る「限る」《動四段》

―りハ用▽ *四六⑦

か・く「書く」《動四段》

―きハ用▽ 二〇③ 二〇④ 二九⑩ 三〇④

三七〇 三九⑩

か・く「掛く・懸く」《動下二段》 cf.い

ひかく・おもひかく・よみかく

―けハ用▽ 二二⑭ *三五⑨

―けハ用▽ 一〇⑧ 四③ 四⑧ 六⑩

九一〇 三四⑩

か・く「搔く」《動四段》

―きハ用▽ 二九⑭

かく「斯く」《副》 cf.とかく・ともかく

も

三〇④ 三二⑩ 五〇⑭ 五三④ 五六⑭

六二② 五九⑧ 八六⑤ 九一⑤

かく(存疑。「うごく」歟) 二六④

かく・す「隠す」《動四段》 cf.とりかく

す

―さハ未▽ 五九⑨

―しハ用▽ 六〇⑬ 六六⑪ 五三⑨

かくて「斯くて」《副》 七〇⑧ 一六⑩

*三三③ *三九①

かくりとう(存疑) 七三⑫

かく・る「隠る」《動下二段》

―れハ未▽ 二六④ 六〇⑫ 六二⑬

―れハ用▽ 六二③

かくれしの・ぶ「隠れ忍ぶ」《動上二段》

―びハ用▽ 三三⑩

かくれみの「隠れ簀」△作品名▽ 五二②

かくれる・る「隠れ居る」《動上二段》

―るハ用▽ 五二④

かくろへば・む「隠ろへばむ」《動四段》

―みハ用▽ 七三⑥

かけ「影」 cf.おもかげ・つきかげ

一〇⑪ 三〇① 三〇② *三〇⑤

かけ「蔭」 cf.ときはのかけ

*六一④

三三⑩

かけかけ・し「形シク活》

―しくハ用▽ 八九⑦

かけて「掛けて」《副》 *四六⑫

かけても「掛けても」《副》 八二③

かげども「影ども」 cf.おんかげども

かけはな・る「懸け離る」《動下二段》

―れハ用▽ 三〇⑧ *三九⑨ *五三⑧

かさ「笠」 cf.ひがさ

かさ・す「挿頭す」《動四段》

―しハ用▽ *三三⑩

かさね「襲」 cf.ひとへがさね

かさみ「汗衫」 二九④ 五九⑤

かざり「飾り」 二〇③

かしがま・し「葛し」《形シク活》

―しきハ体▽ 六二⑭

かしづ・く「傳く」《動四段》

―きハ用▽ 五二④

かしはぎ「柏木」△卷名▽

一七④

かしはぎのゑもんのかみ「柏木の右衛門

の督」 三三⑨ 三三⑩

かしら「頭」 四六④ 五九⑨

かしら「髷髷」 五九⑨

かしらおろ・す「頭おろす」《動四段》

―しハ用▽ 六七⑦

かしらのゆき「頭の雪」 一一⑩

かず「数」 cf.うたかず・ひとかず

三〇③ 五七⑨ 七〇⑬

かすか・なり「幽かなり」《形動ナリ活》

一に八用V 九〇⑬
 かずならず「数ならず」(連) 五⑫
 かずならぬ「数ならぬ」(連) 八⑥
 かずま・ふ「数まふ」(動下二段)
 一へ八未V 三〇①
 かすみのころも「霞の衣」 *三②
 かすみのほら「霞の洞」 六②
 かす・む「霞む」(動四段)
 一み八用V 三⑭
 かぜ「風」 cf.あきかぜ・あぶきのかぜ・
 したかぜ
 三七⑭ 三六⑭ *三④ *三七⑦
 三九⑭ 九〇⑭ 九①
 かた「方」 cf.あげがた・おんかた・き
 しかた・きたのかた・くれがた・す
 ゑつかた・ゆくかた
 二⑨ 一七⑭ 一八③ 二四② 二四⑦
 三三③ 三七③ 三六② *三④ 四四④
 三三⑭ 三七⑭ 六五⑤ 六九⑥ 八〇⑧
 *二⑥ 八八① 九四⑦ 九五②
 かた「形」 cf.あとかた
 *五①
 かがた「方方」 cf.おんかたがた
 かがた「方方」(副) 四⑭ 四九⑭

かたき「敵」 六⑥
 かたし「難し」(形ク活)
 一から八未V 八五⑧
 一か八体V 七⑩
 かたし「難し」(接尾) cf.ありがたし・
 およびがたし・さめがたし・しのび
 がたし・すてがたし・ふりがたし・
 わすれがたし
 かたし・く「片敷く」(動四段)
 一く八体V 三⑭
 かたじけな・し「忝し」(形ク活)
 一く八用V 九③
 かたち「形・容貌」 一八⑩ 一九⑫ 二八⑧
 かたちびと「形人」 三三⑭
 かたはし「片端」 二〇⑨ 四〇⑥
 かたはらいた・し「傍痛し」(形ク活)
 一く八用V 一①
 一し八止V 五⑧
 一き八体V 三①
 かたひか・し「片引かし」(形シク活)
 一しく八用V 三〇⑪ 四三②
 かたほ・なり「偏なり・片秀なり」(形
 動ナリ活)
 一に八用V 八④

かたみ「筐」 四⑧
 かたみ「形見」 一③ *五⑥
 かたみに「互に」(副) 三三② 三三⑪
 四② 六⑭ 六三③
 かたみのいろ「形見の色」 *五⑦
 かた・む「固む」 cf.おもひかたむ
 かたら・ふ「語らふ」(動四段)
 一ふ八体V 二⑭ *二⑭
 かたり「語り」 cf.むかしがたり・もの
 がたり
 かたりつた・ふ「語り伝ふ」(動下二段)
 一へ八用V 八⑨
 かた・る「語る」(動四段)
 一ら八未V 一五⑤
 一り八用V 三③ 三六⑥ 七⑤ 九⑩
 一る八体V 一三③
 かつ「且」(副) 六三⑥
 かつは「且は」(副) 五⑥ 八九⑪
 かど「門」 cf.みかど・むぐらのかど
 三⑥ 三三⑧ *三三⑨
 かな・し「悲し」(形シク活)
 一しく八用V 一② 五⑤
 一し八止V *五②
 一しき八体V 三⑬ 三三⑩ *三②

*六三〇

―しけれへ巳▽ 語④ 四四 六六 六四

かなしさ「悲しさ」一④

かならず「必ず」(副) 二三 五〇 三

六〇④ 六九 七〇 六八

かぬ「兼ね」(接尾) cf.せきかぬ

かね「鐘」 語⑥

かねて「予て」(副) 五七

かねのおと「鐘の音」 *三三⑥

かねのはしら「金銀の柱」 三〇

かの「彼の」(連) 三三⑨ 三三 三三⑩ 三三⑨

か⑤ 五五⑩ 六三③ 六三⑧ 五二② 五九⑨

かは「川」 cf.ありすがは・すみだがは

かばかり「斯許」(副) 二五 七六 九二

二〇⑨ 三二⑧ 二七② 三六⑨ 八二⑬

かはきり「河霧」へ作品名▽

三⑤

がはし「接尾」 cf.みだりがはし

かは・す「交はす」(動四段) cf.おもひ

かはす・かきかはす・なきかはす

―しへ用▽ 三二⑫ 六六①

かはなみ「河浪」 cf.かものかはなみ

かばね「屍・尸」 五七⑤

かはほり「蝙蝠」 cf.とりなきしまのか

はほり

かはり「代はり」 五七⑪

かは・る「変はる」(動四段) cf.さまか

はる・なりかはる・やうかはる

―らへ未▽ 語⑤

―りへ用▽ 六七②

―るへ体▽ 一⑤ 二〇⑥ 六七②

かひ「効」 *六三③

かひな・し「甲斐無し」(形ク活) cf.

いふかひなし

―かりへ用▽ *三三⑬

―しへ止▽ 五七

―きへ体▽ *三三⑦

か・ふ「変ふ」 cf.さまかふ

か・ふ「代ふ・替ふ」(動下二段) cf.き

かふ

―へへ用▽ *三〇⑩ *六六⑦ 六九⑭

―ふへ止▽ 三五⑪ 二六⑪ 四二⑪

かへさ「帰さ」 五七⑩

かへし「返し」 cf.おんかへし

かへ・す「返す」(動四段) かへすがへす

―しへ用▽ 三三⑫

かへすがへす「返す返す」(副) 九〇

二〇⑤ 二二④ 一八⑧ 三三⑪ 二四⑬

三三⑬ 三三⑧ 三三⑩ 四七⑬ 四七⑬

五〇④ 五二⑫ 五二⑭ 六六⑥ 六六⑫

五三⑩ 五三⑬ 八二④ 八六⑤ 九二⑫

かへり「返り」 cf.おんかへり

かへりあ・ふ「返り逢ふ」(動四段)

―ひへ用▽ 四七⑦

かへり・く「帰り来」(動力変)

―こへ未▽ *五五⑭

かへりごと「返り事」 cf.おんかへりご

と

元⑪ 四六③ 四六⑤ 六六① 七四④

かへ・る「帰る・返る」(動四段) cf.き

えかへる・こきかへる・しにかへる・たちかへる・なりかへる・よみがえる・をちかへる

―りへ用▽ 語⑥ 四〇⑩

―るへ体▽ 三〇⑭ *六六④

かほ「顔」 cf.つきのかほ・ところえが

ほなり・ともなひがほなり・ならしがほなり・をりしりがほなり

四七⑬ 四七⑬ 六六⑤

かほ・る「薫る」(動四段)

四七⑬ 四七⑬ 六六⑤

- ーる△体▽ 三〇七
 かほるたいしゅう「蕙大将」 三〇八
 三六七 三六八 三六九 三七〇
 かみ「上」 cf. そのかみ
 かみ「簪」 cf. さゑもんのかみ・ないし
 のかみ・ゑもんのかみ
 かみ「神」 cf. ただすのかみ
 三〇六
 かみ「紙」 三〇四
 かみ「髪」 cf. くるかみ・つくもがみ
 一四 四五 五五
 かみさ・ぶ「神さぶ」《動上二段》
 ーび△用▽ 四四 五四 六四
 かみしやうじ「紙障子」 四一
 かも「賀茂」△ 四三
 かものかはなみ「賀茂の河浪」 *六五①
 かもものしものおんやしる「賀茂の下の御社」 三〇三
 かものだいみやうじん「賀茂の大明神」
 三〇三
 かやうげんのきさき「河陽懸の后」
 三〇一 三〇二 三〇三
 かやう・なり「斯様なり」《形動ナリ活》
 かやう△語幹▽ 八六 二五〇 三〇三
- 三〇六 三〇七 三〇八 三〇九
 ーなら△未▽ 三二 三五 三六
 ーに△用▽ 二二 三三 三九 四〇
 ーなる△体▽ 四二
 かよ・ふ「通ふ」《動四段》
 ーひ△用▽ 三三
 ーへ△已▽ *三九⑧
 からぎぬ「唐衣」 六二
 からなでしこ「唐撫子」 三八
 かり「雁」 三二
 かりそめ「仮初め」 *三三⑭
 かりにも「仮にも」《副》 二九
 か・る「借る」《動四段》
 ーり△用▽ *三九⑩
 がる《接尾》 cf. あさましがる
 かるかや「刈萱」 三二
 かれ「彼」 三一 三五
 かれ「枯れ」 cf. すゑがれ
 かがれがれ・なり「離れ離れなり」《形動ナリ活》
 ーに△用▽ 四四
 かわ・く「乾く」《動四段》
 ーか△未▽ *六二②
 ーく△体▽ 一七
- かんざし「簪」 cf. たまのかんざし
 かんだう「勘当」 四七
 かんだちめ「上達部」 cf. わかかんだちめ
 き
 き「木」 cf. わかぎ
 きえう・す「消え失す」《動下二段》
 ーせ△用▽ 三〇
 きえかへ・る「消え返る」《動四段》
 ーり△用▽ 四七
 きえのこ・る「消え残る」《動四段》
 ーる△体▽ 四七
 きか・す「聞かす」《動下二段》 cf. いひ
 きかす
 ーせ△未▽ 五二
 きか・ふ「着替ふ」《動下二段》
 ーへ△用▽ 四三
 きき「聞き」 cf. おとぎき・ひとぎき
 ききあらは・す「聞き顯はす」《動四段》
 ーし△用▽ 四三
 ききし・る「聞き知る」《動四段》
 ーら△未▽ 三九
 ききつ・く「聞き付く」《動下二段》

一けへ未下 三二②

一けへ用下 三三⑧ 三三⑦ 三三① 三三⑩

ききつた・ふ「聞き伝ふ」《動下二段》

一へへ用下 六六⑬

ききつ・む「聞き詰む」《動下二段》

一めへ用下 五⑥ 五⑧

ききつころ「聞き所」 五④ 八七⑩ 九六⑭

ききふ・す「聞き臥す」《動四段》

一しへ用下 七⑬ 八七⑪ 九六⑫

まく「菊」 三三⑫ 六三⑬ 六三②

き・く「聞く」《動四段》 cf. うちきく・

たちきく・つたへきく・みきく

一かへ未下 五⑧ 六⑭ 四⑤⑥ *六④

一きへ用下 二⑬ 二五⑤ 二七⑩ 三三⑧

四六④ 四六⑬ 七⑩ 八⑥ 八⑬ 八⑭

八五⑬

一くへ体下 二⑧ *二⑧ 八二⑫

八六⑭

きくのはな「菊の花」 六四③

きこえあは・す「聞こえ合はす」《動下

二段》

一せへ用下 三三⑩

きこえあらは・す「聞こえ表はす」《動

四段》

一しへ用下 八六⑩

きこえい・づ「聞こえ出づ」《動下二段》

一でへ未下 八六⑦

きこえさ・す「聞こえさす」《動下二段》

一するへ体下 九六⑥

きこえな・す「聞こえ為す」《動四段》

一しへ用下 三三⑦

きこえにく・し「聞こえ惜し」《形ク活》

一くへ用下 四④ 四⑨

きこ・ゆ「聞こゆ」《動下二段》

一えへ未下 六①

一えへ用下 七⑤ 一二⑫ 一九⑫ 三〇④

三〇⑬ 三③ 四⑥ 四⑫ 五⑩ 五⑭

六③⑩ 七⑩ 七④ 七⑬ 七⑧

八七④ 九⑤ 九⑥ 九⑭① 九⑤ 九⑭

一ゆへ止下 四⑤ 九⑧

一ゆるへ体下 三三④ 三三⑫

一ゆれへ已下 五⑦ 四七⑩

きこ・ゆ「聞こゆ」《補動下二段》 cf. み

おくりきこえ

一えへ未下 五④ 七② 一五⑦ 三三⑬

一えへ用下 一九⑩ 三三⑤ 八⑭ 八⑦

一ゆるへ体下 八九⑨

一ゆれへ已下 四七⑦

きさいのみや「後の宮」 五〇⑦

きさき「后」 cf. かやうけんのきさき

三三⑬ 三三⑩ 三三⑩ 六① 六⑥ 九④

きしかた「来し方」 一三②

きしろふ「靴ろふ」《動四段》

一へへ未下 三三⑨

きそく「気色」 cf. おんきそく

六⑤

きたのかた「北の方」 cf. だいなごんの

きたのかた・まめびとのたいしやう

のきたのかた

三〇③ 三〇④ 三三⑧ 六③ 六九①

七④ 七⑥

きたのまんどころ「北の政所」 五⑬

六九⑤

きたな・し「汚し」《形ク活》

一しへ止下 五⑩

きと《副》 三三⑬

きぬ「衣」 cf. からぎぬ・すずしのきぬ

八⑧

きは「際」 四④

きは・む「極む」《動下二段》

一めへ未下 九⑩

一めへ用下 三⑦

きはやか・なり「際やかなり」《形動ナ

リ活》

ーに八用V 二⑩

きぶね「貴船」 八三③

きみ「君」 cf.あかしのきみ・あねぎみ

・うきみねのきみ・おんはらのきみ

・ごのきみ・さいしやうのきみ・じ

じゅうのきみ・しのきみ・しんさい

しやうのきみ・すもりのきみ・たい

のきみ・たまかづらのきみ・ちゅう

じやうのきみ・ちゅうなごんのきみ

・てならひのきみ・なかのきみ・ひ

めぎみ・ふちのうらはのきみ・やし

なひぎみ・よしののきみ・わかぎみ

・をんなぎみ

*三⑥ 二六⑧ *三⑨ *三七⑦ 四⑫

*四④ *四九⑨ *五⑧ *六② 八⑬

八九⑥ 八九⑩ *九⑭

きやう「京」 二⑥ 一六⑥ 一六⑦

きやう「経」 cf.きやうしきやう・なんま

いきやう・ほげきやう

きやうかう「行幸」 cf.おほはらのぎや

うかう

きやうだい「鏡台」 二九⑭

きやうぶくろ「経袋」 六⑩

き・ゆ「消ゆ」《動下一二段》

ーえ八未V *三⑩

一え八用V *三⑩ 六⑫

きよかう「御幸」 cf.みゆき

きよくわす八作品名V 七⑪

きよげ・なり「清気なり」《形動ナリ活》

ーなる八体V 九①

きよ・し「清し」《形ク活》

ーき八体V 六②

きよら・なり「清らなり」《形動ナリ活》

ーなる八体V 三①

きら・ふ「嫌ふ」《動四段》

ーは八未V 八⑤ 八⑦

きらめきたる「煌めき渡る」《動四

段》

ーり八用V 六⑭

きり「霧」 *三⑩

きりた・つ「霧立つ」《動四段》

ーつ八体V 三⑨

きりつば「桐壺」 三⑪

きりつばのかうい「桐壺の更衣」 一七⑩

き・る「切る」《動四段》

ーり八用V 六④

き・る「着る」《動上一二段》

き八用V 四⑪ *三② 五⑩ 六②

八⑧ 八⑤ 九⑤

きる八体V *六⑧

きんえふしふ「金葉集」 五⑬

きんぎよくしふ「金玉集」 五⑭

きんただのべん「公忠の弁」 二⑫

きんたち「公達」 三②

きんたふ「公任」 cf.しでうだいなごん

きんたふ「公任」 cf.しでうだいなごん

きんたふのだいなごんのおんむまじ「公

任の大納言の御孫」 九⑭

きんのおんさかづき「金の御盃」 九⑮

きんみつ「公光」 cf.えゑもんのかみき

きんのね「琴の音」 三⑪

く

く「来」《動力変》 cf.いでく・かへりく

・たづねく・もてく

こ八未V 二①

き八用V *三⑩

ぐ「具」cf.じまぐ

くくむ「包む」cf.ひきくくむ

くぐわつとをか「九月十日」 三〇

くさ「草」cf.うきくさ・なつくさ・に
はくさ・もしほぐさ

三〇

くさのとざし「草の肩」 三三〇

くさのまくら「草の枕」 三三〇

くさむら「草叢」 一〇

ぐ・す「具す」《動サ変》cf.のりぐす
一せへ未 三六

一せへ未 三六

一せへ未 三六

一せへ未 三六

一せへ未 三六

一せへ未 三六

くた・す「腐す」cf.いひくたす

くだり「下り」cf.おんくだり・つくし
くだり

くだり「行」cf.ひとくだり

くだる「下る」《動四段》cf.あまくだ
る・しなくだる

一れへ已 三三

一れへ已 三三

一れへ已 三三

一れへ已 三三

一れへ已 三三

一れへ已 三三

くちぐち「口」cf.くちぐち
六九

くちぐち「口」cf.くちぐち
六九

七〇

くちずさ・ぶ「口遊ぶ」《動四段》
一ぶへ体 七〇

くちずさ・む「口遊ぶ」《動四段》
一みへ用 二一 三六

くちな・る「口馴る」《動下二段》
一れへ用 六〇

くちを・し「口惜し」《形シク活》
一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

一しからへ未 四六

くづ・る「崩る」《動下二段》
一れへ用 三六

くづのしたば「葛の下葉」 三六

くでうどのさだいしゅう「九条殿の左
大将」 七〇

くどく「功德」 三三 三三

くにもと「国基」 三三

くび「首」 三三 三三

ぐまし「接尾」cf.なみだぐまし
くまな・し「隈無し」《形ク活》
一きへ体 六〇 三三

ぐむ「接尾」cf.うちなみだぐむ
くも「雲」cf.むらぐも
八〇 三六 三九 三三

くもでへ人名 三三

くものうへ「雲の上」 六〇

くも・る「曇る」cf.うちくもる
くもる「雲井」 三三 三三 三三 三三

くやう「供養」cf.いっぽんぎやうくや
う

くやし「悔し」《形シク活》
一しくへ用 三三

くゆりみ・つ「燻り満つ」《動四段》
一ちへ用 四一

くゆりみ・つ「燻り満つ」《動四段》
一ちへ用 四一

くゆりみ・つ「燻り満つ」《動四段》
一ちへ用 四一

くゆりみ・つ「燻り満つ」《動四段》
一ちへ用 四一

くゆりみ・つ「燻り満つ」《動四段》
一ちへ用 四一

くゆりみ・つ「燻り満つ」《動四段》
一ちへ用 四一

くゆりみ・つ「燻り満つ」《動四段》
一ちへ用 四一

くゆりみ・つ「燻り満つ」《動四段》
一ちへ用 四一

くゆりみ・つ「燻り満つ」《動四段》
一ちへ用 四一

くゆりみ・つ「燻り満つ」《動四段》
一ちへ用 四一

くゆりみ・つ「燻り満つ」《動四段》
一ちへ用 四一

くゆりみ・つ「燻り満つ」《動四段》
一ちへ用 四一

くゆりみ・つ「燻り満つ」《動四段》
一ちへ用 四一

くらうどのせうしやう「蔵人の少将」

㉒ ㉓ ㉔ ㉕

くらし「暮らし」cf. ひぐらし

くら・し「暗し」《形ク活》

―からへ未▽ 五六⑬

―うへ音便▽ 六⑪

―きへ体▽ 八⑭ 九① *八⑳ *六㉑

くら・す「暗す」cf. かきくらす

くら・す「暮らす」《動四段》

―すへ体▽ 七⑩①

くらへ「較へ」*三⑩①

くらゐ「位」cf. おんくゐ

五⑭ 六③ 三⑬⑭ 八⑤⑥

くりごと「繰り言」八六⑥

く・る「暮る」《動下二段》

―れへ用▽ 三⑧ 七⑮

―るるへ体▽ *五⑥

くる・し「苦し」cf. ころぐるし・そ

ひぐるし・みぐるし

くるしげ・なり「苦しげなり」cf. こ

ろぐるしげなり

くるひ「狂ひ」cf. ゑひぐるひ

くるま「車」cf. おんくるま

三⑩⑪ 六⑦⑧ 六⑭⑮

くれ「暗れ」cf. あげくれ

くれがた「暮れ方」一⑬

くれたけ「呉竹」三⑩

くれなる「紅」*三⑦

くるかみ「黒髪」*五④

くる・し「黒し」《形ク活》

―くへ用▽ 三⑥ 六⑦④

くわうかもんゐん「皇嘉門院」三⑬

くわうごうぐう「皇后宮」八⑤ 八⑭⑮

六⑩①

くわうたいごうぐう「皇太后宮」cf. び

はどののくわうたいごうぐう・をの

のくわうたいごうぐう

六⑩⑪ 八⑨⑧

くわほう「果報」六⑥ 八①①

くわん「巻」cf. ろくじっくわん

くわんげん「管絃」八①①

くわんぱく「関白」cf. おいくわんぱく・

なかのくわんぱく・わかくわんぱく

五⑩⑪ 五⑥

くわんぱくどの「関白殿」cf. なかのく

わんぱくどの

くわんぱくのうへ「関白の上」六⑩⑪

四① 四④ 五⑦ 六② 八②

くわんぱくのたいしやう「関白の大将」

cf. ぜんくわんぱくのたいしやう

くわんびやうのほふわう「寛平の法皇」

八⑤⑮

くん・ず「屈す」《動サ変》cf. おもひく

んず

―じへ用▽ 二五⑤

け

け「毛」cf. みのけ

け「怪」cf. もののけ

六①

け「故」八⑤⑤

け「下」cf. じやうげ

げ「気」《接尾》cf. いみじげなり・うと

ましげなり・きよげなり・こちよ

げなり・ころぐるしげなり・こ

ろぼそげなり・つつましげなり・て

つつげなり・なげなり・ねたげなり

・はかなげなり・はらだたしげなり

・ひとわるげなり・まめまめしげ

り・みぐるしげなり・むつかしげ

なり・めでたげなり・ものおもはしげ

なり・ゆかしげなり・らうたげなり

・をしげなり

けさ「今朝」六〇 *三五〇

けさ「袈裟」八四④

けさうぶみ「懸想文」cf. おんけさうぶみ

げざやか・なり《形動ナリ活》

―に八用▽ 六三①

けしからぬ「怪しからぬ」《連》

三四⑥ 二六⑨ 六〇⑧

けしき「気色」cf. おんけしき

三三⑭ *三五⑥ 四九⑨ 七二⑨

けたい・す「懈怠す」《動サ変》

―し八用▽ 六⑨

けちか・し「気近し」《形ク活》

―く八用▽ 三三③

げに「実に」《副》五〇⑩ 九二② 一五⑧

五① 五九⑭ 七三⑩ 九三⑭

けふ「今日」*三三⑩⑬ 三三⑭ 三三⑮ *四六⑦

五〇② 五〇③ *三五⑨

けふた・し「煙たし」《形ク活》

―き八用▽ 四①

けぶり「煙」四① *三六⑧ *五九⑬ *三三⑥

*三三⑩ *三三⑫

けんきうしちねん「建久七年」五⑪

げんじ「源氏」八人名▽ cf. ひかるげんじ

二五⑫ 一七⑬ 一八④ 三六⑥ 三〇②

元⑭ 四〇① 三三⑨

げんじ「源氏」八作品名▽ 二三四⑭ 一四⑫

二五① 四〇⑪ 五九⑭ 七二② 八八⑫

げんじのおとど「源氏の大匠」一九⑩

三三⑭ 三三⑧

げんじのみや「源氏の宮」三三① 三三③

げんじのあん「源氏の院」三九⑦

げんじゅう「玄上」八七③

げんそむ八作品名▽ 五⑦

げんてう・なり「顕証なり」《形動ナリ活》

―なり八止▽ 四三⑤

げんのちゅうじゅう「源の中将」六⑬

げんのないしのすけ「源の典侍」三三⑤

こ

こ「子」cf. おんこ・ひがきのこ・みこ

一八⑪ 五九⑨ 六〇⑫ 六三⑦ 六五⑤

六九② 六九⑤ 八二⑤ *六三⑫ *六三⑬

*八四① *八四④

こ「此」《代》cf. この

*三五⑤

こ「籠」cf. はなこ

こうばいのだいなごん「紅梅の大納言」

三④

こうらん「勾欄」五〇⑩ 三三①

こえわぶ「越え佐ぶ」《動上二段》

―び八用▽ *三五⑭

こかは「粉河」四三③

こぎかへ・る「漕ぎ返る」《動四段》

―り八用▽ *四三⑬

こきん「古今」七二⑫ 七三⑨

こきんしふ「古今集」七三⑤

こ・ぐ「漕ぐ」《動四段》

―ぐ八用▽ 元⑫

こぐわつとをか「五月十日」二⑪

こけ「苔」*三三⑩ 八①

こけのたもと「苔の根」一⑦

ここち「心地」cf. おんここち

三⑤ 三③ 九⑫ 九⑭ 一〇② 二③

一五③ 三三① 三三⑨ 三三⑩ *四六⑭

四① 四⑩ 七⑪ 七⑬ 八④

ここちよげ・なり「心地好げなり」《形動ナリ活》

―に八用▽ 三⑬

ここのへ「九重」六②

「こころあはれ」心【心】cf.うしじこころ・おんこ

こころこころこころこころこころこころこころ
こころこころこころこころこころこころこころ

一 ⑤ 二 ④ 三 ⑦ 四 ⑥ 五 ① 六 ⑧ 七 ⑨

八 ⑫ 九 ④ 一〇 ⑫ 一一 ⑫ 一二 ⑦ 一三 ⑨
一四 ⑫ 一五 ② 一六 ② 一七 ② 一八 ② 一九 ②

*三三 ⑭ *三五 ⑥ *三六 ⑬ 四〇 ⑬ 四一 ⑪
四二 ⑨ 四三 ② 四四 ② *四五 ⑥ *四六 ⑥
四七 ② 四八 ② *四九 ② *五〇 ② *五一 ②

六 ⑤ 七 ① 八 ⑭ 九 ① 一〇 ③ 一一 ③
一二 ② 一三 ③ 一四 ② 一五 ⑦ 一六 ⑫
一七 ⑩ 一八 ② 一九 ⑫ 二〇 ⑦ 二一 ⑫

二二 ⑩ 二三 ① *二四 ① 二五 ⑥ 二六 ⑪
二七 ⑧ 二八 ⑫ 二九 ⑫ 三〇 ⑫ 三一 ⑫
三二 ⑧ 三三 ⑫ 三四 ⑫ 三五 ⑫ 三六 ⑫

「こころあ・り」心有り【動ラ変】

一り入用▽ 五九 ⑫
一る入体▽ 七〇 ③

「こころあわただ・し」心慌し【形シク活】

一しく入用▽ 三六 ①
こころい・る「心入る」【動四段】

一り入用▽ 四九 ⑨
こころ・う「心得」【動下二段】

一え入用▽ 一六 ⑦ 一七 ②
こころう・し「心憂し」【形ク活】

一く入用▽ 四〇 ⑩ 四一 ⑩

一き入体▽ 三三 ⑩
こころおく・る「心後る」【動下二段】

一れ入用▽ 三三 ⑪ 三六 ⑨
こころおとり「心劣り」【動サ変】

こころおとり・す「心劣りす」【動サ変】

一し入用▽ 三六 ⑩ 三九 ⑭
一する入体▽ 三九 ⑫
一すれ入已▽ 三六 ⑦

こころがまへ「心構へ」cf.おんこころ
がまへ

こころがら「心柄」cf.おんこころがら
こころぐる・し「心苦し」【形シク活】

一しく入用▽ 四二 ⑥
一しかり入用▽ 三三 ⑨
一しき入体▽ 一六 ① 三三 ⑩ 四三 ③

こころぐるしげ・なり「心苦し気なり」
【形動ナリ活】

一に入用▽ 三三 ⑩ 三六 ⑫
一なる入体▽ 三三 ② 三九 ⑫

こころこころ「心々」cf.おんこころこころ
こころな・し「志」cf.おんこころな・し

こころさま「心様」六六 ⑪ 七二 ⑭

「こころさわき」心騒ぎ【形ク活】

こころじゃうず「心上衆」四六 ⑭ 四九 ③
こころすま・す「心澄ます」【動四段】

一し入用▽ 三三 ⑬
こころせば・し「心狭し」【形ク活】

一き入体▽ 三六 ⑩
こころたかき「心高き」入作品名▽

こころづかひ「心遣ひ」七六 ⑨
こころづきな・し「心付き無し」【形ク活】

一し入止▽ 一六 ③ 五二 ⑩
一き入体▽ 三〇 ④ 三二 ⑫ 五二 ②
一かる入体▽ 一九 ⑪
一けれ入已▽ 三六 ⑧ 六九 ④

こころづくし「心尽し」三三 ① 四三 ⑩
*三三 ④ 三六 ⑥

こころつよ・し「心強し」【形ク活】

一く入用▽ 一六 ① 一九 ② 四八 ⑬ 五九 ⑥
一き入体▽ 一六 ①

こころなが・し「心長し」【形ク活】

一く入用▽ 三三 ④
こころな・し「心無し」【形ク活】

一き入体▽ 一六 ⑧ 一八 ⑨

「こころにくし」「心憎し」《形ク活》

―からへ未▽ 二〇

―くへ用▽ 四〇 二二 一七 一九

三六 六八 六五 六六

六六 六八 六九 七〇

七二 七三

―きへ体▽ 一九 二四 二七 三五

―けれへ已▽ 六六

「こころのいろ」「心の色」 九三

「こころのうち」「心の内」 二〇 四一

「こころのさま」「心の様」 二七

「こころのど・む」「心和む」《動下二段》

―めへ用▽ 三〇

「こころのほど」「心の程」 六七 八三

六七 八〇

「こころばせ」「心ばせ」 二四

「こころはづか・し」「心恥し」《形シク活》

―しへ止▽ 四九

「こころばへ」「心延へ」 一九 二〇

二〇

「こころふかき」「心深き」 三三

「こころふか・し」「心深し」《形ク活》

―くへ用▽ 二二 二〇 四四 五五

「こころほそげ・なり」「心細気なり」《形

動ナリ活》

―なりへ用▽ 六六

「こころほそ・し」「心細し」《形ク形》

―くへ用▽ 三三 *七三 七四

―きへ体▽ 八七

「こころまさり・す」「心勝りす」《動サ変》

―すれへ已▽ 三三

「こころもちる」「心用ゐる」cf.おんこころ

もちる 一七 一九 四一 五三 六九

「こころやす・し」「心安し」《形ク活》

―くへ用▽ 六六

「こころやま・し」「心疾し」《形シク活》

―しくへ用▽ 六六

―しきへ体▽ 六六

―しけれへ已▽ 六六 六八

「こころゆ・く」「心行く」《動四段》

―きへ用▽ 二七 二八

「こころよ・し」「心良し」《形ク活》

―からへ未▽ 五七

「こころよせ」「心寄せ」 五五

「こ・し」「濃し」《形ク活》

―くへ用▽ 三九

こしうや「腰札」 六六

こしきぶのないし「小式部の内侍」

二二 二〇 四四

こしふる「後拾遺」 七三 八〇

こじま「小嶋」へ巻名▽ 一七

こしらかはらん「後白河院」 六三

こしをれ「腰折れ」 七三

こじんのこころ「古人の心」 三〇

こすゑども「梢ども」 三三

こせ「後世」cf.のちのよ

一三 一四

こせむずへ作品名▽ 七五

こせん「後撰」 七三

こだい「古代」 六〇

こだち「木立」 三三 三六

こた・ふ「答ふ」《動下二段》

―へよへ命▽ *四三

こたま「木霊」 三三

こちた・し「言痛し」《形ク活》

―くへ用▽ 九二

こつ《接尾》cf.ひとりごと

こてふ「胡蝶」へ巻名▽ 一七

こと「言」cf.くりごと・つひやまごと・ひとこと

こと「事」おほやげごと・おんごと・

かへりごと・さらごと・なにごと・

ふるごと

②	⑧	②	⑦	③	②	④	⑤	⑥	⑧	⑨	⑫	⑫	⑫	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬
三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

四八⑩ 五〇⑤ 五〇⑥ 五〇⑨ 五〇⑬

三三① 三三② 三三④ 三三⑤ 三三⑤

三三③ 三三③ 三三② 三三② 三三②

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

三三③ 三三③ 三三③ 三三③ 三三③

—しくへ用√ 三①

ことすくな・なり「言少ななり」《形動

ナリ活)

—にへ用√ 三①

ことす・む(存疑。「ことそぐ」歟)

—みへ用√ 三⑦

ことそ・ぐ「事削ぐ」《動四段》

—ぎへ用√ 三⑫

ことども「事ども」おそぞろごとども

—にへ用√ 三①

こと・なり「異なり」おさまことなり

ことのほか・なり「殊の外なり」《形動

ナリ活)

—にへ用√ 三⑥

ことと・ふ「言問ふ」《動四段》

—ひへ用√ 三①

こと・なり「異なり」おさまことなり

ことのほか・なり「殊の外なり」《形動

ナリ活)

—にへ用√ 三⑥

—なるへ用√ 三④

ことば「言葉」おひこことば

ことば「言葉」おひこことば

ことば「言葉」おひこことば

ことば「言葉」おひこことば

三〇③ 五九③ 六〇② 六〇⑥ 六二①①
 六三⑩ 六四⑩ 六六⑩ 六七⑨ 六八⑧
 七④ 七⑦ 七④
 ことばづつき「言葉統き」一五⑫ 五七⑭
 こども「子供」五三③ 五八⑤
 ことわり・なり「理なり」《形動ナリ活》
 ことわりハ語幹▽ 八⑫ 四九⑬ 六〇①
 一にハ用▽ 二⑬ 三六⑬
 一なりハ止▽ 一六⑬ 二四⑬ 四三①
 四八⑧ 六五⑨ 七⑦ 九三③ 九六⑥
 六⑥ 六⑫
 こなたさま「此方様」二⑩ 三① 六⑬
 この「此の」《連》五⑨ 七⑪ 八⑪
 一〇⑧ 二② 二⑬ 二⑬ 二四⑫
 一五⑬ 一六⑫ 一七⑩ 一七⑬ 三〇①
 四⑫ 四八⑦ 四九⑬ 五⑭ 五⑦
 五④ 六③ 六⑤ 六五⑩ 六六⑪
 七⑦ 七⑧ 七⑪ 八⑧
 このきみ「五の君」五③
 このごろ「此の頃」五九⑪ 七③
 このした「木の下」*三②「こへ木」▽
 ニ「子」ヨカケル
 この・む「好む」《動四段》
 一まへ未▽ 六⑪

一みハ用▽ 六⑭ 七⑦
 一むハ体▽ 六⑧
 このも・し「好もし」《形シク活》
 一しくハ用▽ 一八⑫ 一九⑧
 一しハ止▽ 一①
 一しきハ体▽ 一八⑨ 一九⑫ 三〇⑩
 六⑥
 一しけれハ已▽ 六三③
 このよ「此の世」二⑦ 八① 八④ 八⑬
 九⑧ 一三② 一四⑫ 二〇⑦ *五⑬
 五⑤ 七⑨ 八②
 このゑのゐん「近衛の院」五⑭
 こひい・つ「乞ひ出づ」《動下二段》
 一でハ用▽ 三④
 こひ・し「恋し」《形シク活》
 一しくハ用▽ 三⑤
 一しかりハ用▽ 八⑨
 一しハ止▽ 七⑦
 一しきハ体▽ 一⑥ 九⑥ *三⑩ *三⑥
 一しけれハ已▽ *五⑬
 こひしき「恋しき」*八⑤③
 こひわ・ぶ「恋ひ仵ぶ」《動上二段》
 一びハ用▽ *三④
 こ・ふ「請ふ」cf. まうしこふ

こ・ふ「恋ふ」《動上二段》
 一ひハ未▽ 九②④
 一ひハ用▽ 三②
 こほ・る「氷る」cf. しみこほる
 こほ・る「零る」《動下二段》
 一れハ未▽ 二⑩
 一れハ用▽ 六⑧
 こま「高麗」八⑩
 こまか・なり「細かなり」《形動ナリ活》
 一にハ用▽ 三⑭ 高⑥ 高⑧ 八⑧⑧
 こまこまと「細細と」《副》九⑬
 こまち「小町」cf. をのこまち
 こまむかへ「駒迎へ」ハ作品名▽ 六九⑧
 こまやか・なり「細やかなり」《形動ナリ活》
 一にハ用▽ 三⑬
 こ・む「籠む」cf. とりこむ
 こめか・し「子めかし」《形シク活》
 一しくハ用▽ 三⑬
 こものがたり「古物語」六六⑨
 こもり・ある「籠り居る」《動上一段》
 一るハ未▽ 六①
 一るハ用▽ 六⑦ 八⑬
 こも・る「籠る」《動四段》cf. たえこも

る

ーらへ未▽ 五三⑭

ーりへ用▽ 一五⑬ 三二⑩ 五六⑤ 六三⑧

こ・ゆ「越ゆ」《動下二段》 五六⑤ 六三⑧

ーえへ未▽ *三三③

ーゆるへ体▽ *三三⑨

こよな・し「形ク活」

ーくへ用▽ 二七⑦

こよひ「今宵」 七〇⑧ 一五〇⑧ *五五⑧

「ごらんじあは・す」御覽じ合はす」《動

下二段》

ーせへ用▽ 五三⑬

「ごらん・ず」御覽す」《動サ変》

ーぜへ未▽ 九二⑥

ーじへ用▽ 五三④ 五七① 九〇⑤ 九三③

ーずるへ体▽ 五三①

ーぜよへ命▽ 七〇① 七五⑥ 五七①

突②

「こりすまて」懲りすまて」《副》 *六六②

「これ」此」《代》「ニ」須磨」ヲカケル」

一三⑫ 一四② 三三③ 三七⑬ 五九④

四〇⑤ 四二③ 四三⑬ 四四④ *五六⑭

*五〇⑫ 六〇⑤ 六〇⑧ 六〇⑩ 六〇⑭

六二⑥ 七二⑫ 七三⑩ 八二⑭

六七⑦ 九〇⑤ 九三③

これみつ「権光」八人名▽ 五三⑩ 五八⑭

これひらのちゅうじやう「伊衡の中將」

突③

ころ「頃」 五三⑩ 七三⑩ *八四⑫

六四④ *三三⑨ 五三⑬ 七三⑩ *八四⑫

ころ・す「殺す」 五三⑬ 七三⑩ *八四⑫

ころも「衣」 五三⑬ 七三⑩ *八四⑫

みのころも・さよのころも

一四④ *三三⑨ 五三⑬

「こゑ」声」 五三⑬ 七三⑩ *八四⑫

んなごゑ

一四③ 一五④ 三三⑩ 五三⑬ 五五⑧

「こゑ」こゑ」 五三⑬ 七三⑩ *八四⑫

「ごんたいなごん」権大納言」 六六⑥

「ごんちゅうなごん」権中納言」 六六⑥

突⑭

ね

さ《接尾》 五三⑩ 五八⑭

さ・おぼつかなさ・かなしさ・かへ

さ・くちをじさ・ころろふかさ・こ

ひしき・つらさ・にくさ・みまほし

さ・ものはかなさ・よくふかさ

さ「然」《副》 五三⑩ 五八⑭

も・させる・なで・なは・さばかり

・さほど・さまで・さあ・さやう

一三⑪ 一六⑦ 五九⑥ 五九①

さいかく「才覚」 一三① 四三⑦

さいぐう「齋宮」 五三⑬ 七三⑩ *八四⑫

三六④ 五五⑦

さいぐうのおんかた「齋宮の御方」

突⑥

さいぐうのひめぎみ「齋宮の姫君」

六六④

さいしやう「宰相」 五三⑬ 七三⑩ *八四⑫

う

さいしやうくわうぬん「最勝光院」 二二②

さいしやうのみきみ「宰相の君」 五三⑬

さいしやうのみきみ

六二⑥

さいしやうのちゅうじやう「宰相の中

将」^{四〇③} ^{三〇①} ^{三〇②} ^{六六④}

さい② ^{六七⑥}

さいだいいち「最第一」cf.ほっけさい

だいいち

さいな・む「苛む」《動四段》

一み入用 ^{四六③}

一め入已 ^{五七④}

さいはひ「幸ひ」cf.おんさいはひ・さ

ちさいはひ

六三⑩ 六九⑨

さいるん「齋院」cf.ださいるん

四〇⑤

さうさう・し《形シク活》

一しき入体 ^{六九①}

一しけれ入已 ^{三三②} ^{六六④}

さうし「草子」cf.まくらのさうし

さうしきやう「冊子経」^{六〇⑩}

さうぞく「装束」cf.しやうぞく

三九④

さうのおや「左右の親」^{二九⑭}

さうのこと「箏の琴」cf.しやうのこと

さえ「才」^{四三⑦}

さかき「賢木」入卷名 ^{一六③}

さかさか・し「賢賢し」《形シク活》

一しく入用 ^{三〇⑦}

さかさま・なり「逆様なり」《形動ナリ

活》

一に入用 ^{三三②}

さかしら・なり「賢しらなり」《形動ナ

リ活》

一に入用 ^{三三②}

さかづき「盃」cf.きんのおんさかづき

さかな「肴」cf.おんさかな

さかり「盛り」cf.はなざかり

△⑥

さかり・なり「盛りなり」《形動ナリ活》

さかり入語幹 ^{三三⑩}

一に入用 ^{三三⑦} ^{八一①}

さか・る「逆る」《動四段》

一ら入未 ^{三三⑦}

さき「先」cf.ゆくさき

三三⑨

さきだ・つ「先立つ」《動四段》

一た入未 ^{三六⑩}

一つ入体 ^{六二⑥}

さきのよ「前の世」^{三三①} ^{三三①}

さ・く「咲く」《動四段》

一か入未 ^{三三⑩}

一く入体 ^{三三⑩}

さくら「桜」^{三三⑩} ^{二七⑦} ^{三三⑦}

*三三⑩

さこそ《副》^{三三⑩} ^{六九⑩}

さころも《狭衣》入作品名 ^{四〇⑩}

三三② ^{七〇⑥} ^{七〇④}

ささめ・く cf.うちささめく

さしい・つ「射し出す」《動下二段》

一で入用 ^{三三⑩}

さしいらへ「差し答へ」^{八七⑪}

さしお・く「差し置く」《動四段》

一き入用 ^{六六③}

さじき「棧敷」^{六六③}

さして《副》^{四〇⑩} ^{四〇⑦} ^{五七③}

さしまじる「差し混る」《動四段》

一り入用 ^{三三⑩}

さしむか・ふ「差し向かふ」《動四段》

一ひ入用 ^{九二⑫} ^{一〇⑥} ^{八八④}

さしも《副》^{三三⑩} ^{一八①} ^{三三⑫} ^{三三⑥}

三三⑥ ^{三三⑫} ^{三三⑫} ^{三三⑫} ^{四九⑪}

五七⑦ ^{六二⑩} ^{六二⑩} ^{六二②} ^{六四③}

四三⑭ ^{五七⑩} ^{五七⑤} ^{五七①}

さ・す「止す」 ㊦かきさす
 さすが「流石」《副》 三三⑥
 さすがに「流石に」《副》 三三⑫
 さすら・ふ「流離ふ」《動下二段》
 一へ入用▽ *三〇③
 させる《連体》 三九⑦ 六〇② 六〇⑥
 さそ・ふ「誘ふ」《動四段》
 一ふ入体▽ 一九② *六⑪
 さた「沙汰」 五八⑥ 九三⑬
 さだいしやう「左大将」 ㊦くでうどの
 のさだいしやう
 さだか・なり「定かなり」《形動ナリ活》
 一に入用▽ 二②
 さだま・る「定まる」《動四段》
 一り入用▽ 三三② 三三⑦
 さだ・む「定む」《動下二段》
 一め入未▽ 三三⑭
 一め入用▽ 一〇⑫
 さだめな・し「定め無し」《形ク活》
 一き入体▽ 三三③
 さだよりのちゅうなごん「定頼の中納言」
 言 二八⑧ 二八⑪
 さちさいはひ「幸幸ひ」 三三④
 さて「扱」《副・接》 ㊦さてのみ・さて

も
 ① 二五⑥ 四七⑦ 四八⑧ 五三⑬ 六三①
 ④ 五三⑪ 六〇⑤ 六〇⑦ 六三⑥
 さてさて「扱扱」《感》 五八⑧
 さてのみ《副》 三三⑭
 さても「扱も」《接》 ㊦さてもさても
 一四⑫ 六六⑥ 六六②
 さてもさても「扱も扱も」《接》 六四⑭
 さと「里・郷」 ㊦ひとごと・ふるさと・
 やまざと
 八八⑬
 さながら「宛ら」《副》 三三③
 さなへ「早苗」 三三②
 さぬきのみん「讃岐の院」 五三⑭
 さのみ「然のみ」《副》 二六⑨ 三三⑨
 さは「沢」 *三三④
 さは《副》 三三③ 三三⑨
 さは《接》 六四⑥
 さばかり「然許り」《副》 一三⑭ 一四⑦
 一五③ 一五⑥ 一八① 一八⑬ 一九⑤
 二〇⑤ 二〇⑬ 二二⑥ 二二⑬ 二四④
 三三⑧ 三三① 三三⑦ 三三④ 三三⑤
 三三⑫ 三三⑥ 三三⑬ 三三⑩ 三三④

六〇⑨ 六〇⑬ 八二⑫ 九〇⑪ 九二⑩
 さは・る「障る」《動四段》
 一り入用▽ *三三⑪
 さび・し「寂し」《形シク活》
 一しく入用▽ 三三⑫
 さぶ《接尾》 ㊦かみさぶ
 さぶらひ「侍」 六六⑫
 さぶら・ふ「侍ふ・候ふ」《動四段》
 一ひ入用▽ 三三⑬ 六① 二九⑧ 三三⑭
 六〇⑥ 八九⑨ 九二② 九三③ 九三⑦
 三三⑩
 一ふ入体▽ 二六⑤ 二九⑦ 三三⑬ 八八⑧
 さほど「然程」《副》 三三⑥ 三三⑨
 さま「様」 ㊦ありさま・おんさま・こ
 ころさま・ごころのさま・こなた
 さま・なまさま・てしなさま・のぼり
 さま・ひとさま
 三三⑧ 三三⑥ 三三⑪ 三三⑫ 一四⑩
 三三④ 三三⑩ 二七⑦ 四八⑬ 五八①
 六〇④ 六〇⑧ 六四⑪ 七〇④ 七二⑫
 七三① 七三② 八九⑤
 さまかは・る「様変はる」《動四段》
 一り入用▽ 三三⑦
 さまか・ふ「様変ふ」《動下二段》

一へ入用▽ 二六④

さまこと・なり「様異なり」《形動ナリ

活》

一へ入用▽ 二六⑤

さまさま「様様」 五⑤ 七⑪ 一七②

三④ 三⑩ 三⑫ 五⑥ 七④

六⑦ 六⑫

さまさま・なり「様様なり」《形動ナリ

活》

一なり入用▽ 二四②

一へ入用▽ 一八⑤ 七②

さま・す「覚す」《動四段》

一す入止▽ *四⑭

さまで《副》 三七⑤ 四三⑫ 四九② 五⑩

さま②

さまざま「様ども」 六四⑬

さみだれ「五月雨」 二⑪

さ・む「冷む」《動下二段》

一め入用▽ 四⑬ 六⑦

一むる入体▽ 七⑤

さ・む「覚む」《動下二段》

一め入未▽ *六⑩

一め入用▽ 六⑩

さめがた・し「覚め難し」《形ク活》

一き入体▽ 四六⑧

さも「然も」《副》 二七① 五⑦

さやう「然様」 四⑩ 六⑪ 八⑥

六⑬ 六⑮

さよのころも「小夜の衣」 *六⑧

さらずは「然らずは」《接》 三②

さらでは「然らでは」《接》 六⑫

さらでも「然らでも」《副》 三② 三①

三⑫ 四⑭ 四⑯ 五⑨ 五⑬

さら・なり「更なり」《形動ナリ活》

一なり入止▽ 一七⑫

さらば「然らば」《接》 七⑧ 七⑤

六①

さりとて「然りとて」《接》 四⑭

さりとならば「然りとならば」《接》

四⑬

さりながら「然りながら」《接》 七⑥

さ・る「去る」《動四段》

一ら入未▽ *三③

さる「然る」《連体》 二四⑦ 三① 三③

二② 三⑤ 四⑩ 五⑫ 五⑯

六⑰ 七⑦ 七⑯

さるにても「然るにても」《接》 七⑭

さるは「然るは」《接》 二⑧

さるべ・し「然る可し」《形ク活》

一き入体▽ 二⑬ 六⑨

さるものにて「然る物にて」《連》 一四⑤

されど「然れど」《接》 三⑨ 六⑬

五⑮ 五⑰ 五⑳ 六⑬

されども「然れども」《接》 四⑩ 八⑥

六⑰

されば「然れば」《接》 八⑪ 七⑧

三⑭ 五⑧ 七④ 八⑥

さわがれ「騒がれ」cf. おんさわがれ

さわぎ「騒ぎ」cf. ころさわぎ

三⑦

さわ・く「騒ぐ」《動四段》

一ぎ入用▽ *三七⑦

さるもんのかみ「左衛門の督」 四①

三② 五⑥ 六②

さるもんのかみきんみつ「左衛門の督公

光」 二⑫

さんがいむあんいうによくわたく「三界

無安猶如火宅」 二①

さんげ・す「懺悔す」《動サ変》

一し入用▽ 五⑨

さんしにん「三四人」 四⑩ 七⑭

さんだいしふ「三代集」 五⑭

41 自立語の部

- さんのみや「三の宮」 cf.をんなさんの
 みや ⑥
 さんまいきやう「三昧経」 五三〇
 さんみ「三位」 cf.はくがのさんみ
 さんみにふだう「三位入道」 五三
 さんみのちゅうじやう「三位の中將」
 六四二
 し
 し「師」 cf.のりのし
 五七〇
 し「詩」 八八〇
 しあり・く「為歩く」《動四段》
 一く八体 三六
 しいだ・す「為出だす」《動四段》
 一し八用 六六
 一す八体 五九
 しい・づ「為出づ」《動下二段》
 一で八用 五七
 一づる八体 五九
 し・う「為得」《動下二段》
 一え八用 二四 六六
 しかるべ・し「然る可し」《形ク活》
 八三
 一き八体 八〇
 しきぶきやうのなかのむすめ「式部卿の
 中の女」 七〇
 しきぶきやうのみや「式部卿の宮」
 五三 五三 六九
 し・く「如」《動四段》
 一く八体 三三
 し・く「敷く」《動四段》 cf.かたしく
 一か八未 七
 し・く「頻く」 cf.うちしく
 しぐれ「時雨」 二六 五三
 しげ・し「繁し」《形ク活》
 しげ八語幹 六八
 一き八体 五二
 しげみ「茂み」 三三
 しげりわた・る「茂り渡る」《動四段》
 一り八用 七
 しげ・る「茂る」 cf.おひしげる
 しごにん「四五人」 五三
 じじゅうのきみ「侍従の君」 三七
 しそくなしのせうしやう「紙燭なしの少
 將」 六三
 した「下」 cf.このした
 八三
 したかせ「下風」 五七
 したたか・なり「健かなり」《形動ナリ
 活》
 一なる八体 六四
 したば「下葉」 cf.くづのしたば
 しちねん「七年」 cf.けんきうしちねん
 しちはちにん「七八人」 七 九
 しづく「雫」 三二
 しづのをだまき「倭文の苧環」 五三
 しづま・る「静まる」《動四段》
 一り八用 二四 六四
 しづ・む「沈む」《動四段》 cf.おもひし
 づむ
 一み八用 六六
 しづ・む「鎮む」 cf.もてしづむ
 しつらひ cf.おんしつらひ
 しでうだいなごんきんたふ「四条大納言
 公任」 五三
 してのやま「死出の山」 五三
 してのやまち「死出の山路」 二 六
 しな「品」 五三
 しなくだ・る「品下る」《動四段》
 一り八用 二四
 しなさだめ「品定め」 cf.あまよのしな

さだめ

しな・す「為成す」《動四段》

―しへ用▽ 三①

しに「死に」cf.そらじに

しにい・る「死に入る」《動四段》

―りへ用▽ 六⑩

しにかへ・る「死に返る」《動四段》

―りへ用▽ 一②

―るへ止▽ 三⑭

し・ぬ「死ぬ」《動ナ変》

―なへ未▽ 四⑬

―ぬへ止▽ 八⑥

しのみ「四の君」 五③ 六③ 三①

しのみのはは「四の君の母」 五⑩

しのび「忍び」 *六⑤③

しのびありき「忍び歩き」 cf.おんしの

びありき

しのびがた・し「忍び難し」《形ク活》

―くへ用▽ 四⑧⑥

しのびどころ「偲び所」 三③

しのびね「忍び音」 一⑦

動ナリ活《

―にへ用▽ 四⑭ 五③

しの・ぶ「忍ぶ」《動上二段》 cf.かくれ

しのぶ

―びへ用▽ 六⑬ 三⑦ 六⑫

しば「芝」 cf.みちしば

しばし「暫し」《副》 *三⑩⑩ 三②

四⑭ 四⑭

しひて「強ひて」《副》 七② 二⑦

三① 二⑤⑤ 五⑩⑩

じひふか・し「慈悲深し」《形ク活》

―くへ用▽ 五①

しふ「集」 cf.きんえふしふ・きんぎょ

くしふ・こきんしふ・さんだいしふ

・しふるしふ・せんざいしふ・せん

しふ・ちよくせんしふ・はちだいし

ふ・まんえふしふ

五⑥ 五④ 五⑭ 七① 七⑩

じぶぐ「十具」 九⑤③

じぶごにち「十五日」 cf.はちぐわつじ

ぶごにち

じふごや「十五夜」 cf.はちぐわつじぶ

ごや

じふしちのならび「十七の並び」 一①

じふども「集ども」 五⑨ 五④

じふらせち「十羅刹」 七④

じふるくしち「十六七」 五⑫

しふるしふ「拾遺集」 五③

しふるせう「拾遺抄」 五③

しほ「塩」 *五⑬

しほしほと《副》 *三⑭⑭「塩」ヲカケ

ル)

しみこほ・る「凍み氷る」《動四段》

―りへ用▽ 三①

しみづ「清水」 *五⑩

し・む「染む」《動四段》

―みへ用▽ 二⑪ 三⑦ 五⑩ 二⑦⑩

四⑩

―むへ止▽ 四⑬ 七⑭

―めへ已▽ 三⑥

し・む「染む」《動下二段》 cf.おもひし

む

―めへ用▽ 八⑬ 三⑬⑬ *三⑦⑦ 六⑦⑦

しめじめと《副》 七⑭ 四⑩⑩ 五⑬

しめやか・なり《形動ナリ活》

―にへ用▽ 五⑨

しめ・る「湿る」《動四段》

―りへ用▽ 三⑥

しもづかへ「下仕」 三⑩⑩

しやう「姓」 四⑭⑭

じやうぐわつ「正月」 六七〇
 じやうぐわついちじつ「正月一日」 三六〇
 じやうげ「上下」 一七〇
 じやうじ「障子」 cf. かみじやうじ
 じやうじの糸「障子の絵」 二〇
 じやうず「上衆」 cf. こころじやうず
 じやうずめか・し「上衆めかし」《形シク活》
 ーしくへ用▽ 四〇二
 じやうぜん「生善」 cf. めつざいじやうぜん
 ぜん 三三
 じやうぞく「装束」 cf. じやうぞく 九八
 じやうど「浄土」 二四
 じやうとうもんらん「上東門院」 二二
 八七 八九
 じやうのこと「箏の琴」 四六 八六
 九四
 じやうぶつ「成仏」 cf. そくしんじやうぶつ
 ぶつ
 じやく「笏」 三三
 じゆ「首」 cf. ひやくしゆ
 じゆじやくるん「朱雀院」 cf. すぎくるん

しゅつけ・す「出家す」《動サ変》
 ーしへ用▽ 三六
 しゅみやうにふをみやうえうふもんぶつ
 みやう「従冥入於冥永不聞仏名」 三六
 三六
 しゅんじう「春秋」 一二
 しようめいもん「承明門」 八七
 しょしゃのひじり「書写の聖」 八二
 しらかはるん「白河院」 三六
 しら・す「知らず」《動下二段》
 ーせへ用▽ 三六
 しら・ぶ「調ぶ」《動下二段》
 ーべへ用▽ 三六
 ーべへ用▽ 三六
 しり「尻」 三六
 しりぞ・む「知り初む」《動下二段》
 ーめへ用▽ 三六
 し・る「知る」《動四段》 cf. おもひしる
 ・ききしる・みしる
 ーらへ未▽ 八 二〇 三三 二六
 *三六 *四三 七 八 一〇
 *二六 *六〇 七
 ーりへ用▽ *六三
 ーるへ止▽ *三三

ーるへ体▽ *三三
 し・る「知」《動下二段》 cf. ひとしれぬ
 ーれへ未▽ *二八
 しるし「験」 一四
 しる・す「記す」《動四段》 cf. かきしるす
 ーさへ未▽ 三六
 しるべ「導」 *一四 九
 しるがねのてうし「銀の銚子」 三六
 しるがねのをしき「銀の折敷」 三六
 しる・し「白し」《形ク活》
 ーきへ体▽ 三六
 しるらか・なり「白らかなり」《形動ナリ活》
 ーにへ用▽ 四
 しわざ「仕業」 一五 三三 四二
 三六 三九 五五 五九 六四
 七三 八
 しを・る「萎る」《動下二段》
 ーるるへ体▽ *三九
 しんさいしやうのきみ「新宰相の君」 三六
 しんでん「寢殿」 二七 四
 しんどう・す「震動す」 cf. だいちろく

はんしんどうす

しんわう「親王」 cf. もろこしのしんわ

う

しんるんひやくしゅ「新院百首」 亥①

す

す「簾」 cf. みす

六① 九⑩ 六⑫

す「為」《動サ変》 cf. うしろみす・うち

す・おんどぎす・ぐす・くんず・け

たいす・こころおとりす・こころま

さりす・ごらんず・ざんげす・しゅ

つけす・ずんず・せんず・そらねす

・だいちろくはんしんどうす・たい

めんす・たびねす・とはずがたりす

・とりむすめす・なにしに・ねざめ

す・ものがたりす・ものごのみす・

ものす・よういす

せ八未V 五⑩ 一八⑪ 三三① *三⑩

四六⑭ *四七⑪ 四八③ 五① *五⑬

*五⑭ 六① 六⑪ *六⑬ 八③

*八⑥ 八④ 八七⑪ 八七⑫ 八八⑥

八⑬ 九⑫

し八用V 二⑨ 二⑤ 四⑦ 五① 九⑫

二② 一四⑥ 一四⑨ 一八⑬ 二六⑦

二九① 二九④ 二九⑥ 三三⑩ *三⑪

三⑨ 四③ 四③ 四六⑥ 四八⑨

四⑤ 五① 五③ 五④ 五⑬

五① 五④ *五② 五⑧ 五⑩

五① 五⑥ 六⑬ *六② 六②

七⑫ 七⑫ 七⑫ 七⑩ 七②

八⑧ 八⑫ 八④ 九⑬ 九⑨

す八止V 一③ 三⑤ 五② *五⑧

六② 六③

する八体V 三③ 二⑩ 二⑨ 二九⑪

三⑩ 五⑨ 五③ 六① 六⑬

七⑥ 七⑫

すれ八已V 六⑬ 二⑨ 四九⑤

す・う「握う」《動下二段》 cf. ひきすう

一系八未V 七④

一系八用V 九⑥

すか・す「賺す」《動四段》

一さ八未V 六⑪

すがた「姿」 cf. あますがた・なほしす

がた

一④ 八⑨ 九⑫

すから《接尾》 cf. よもすから

すぎう・し「過ぎ憂し」《形ク活》

一く八用V *五⑩

一かり八用V *五⑨

一き八体V *五③

すぎこころ「好き心」 七⑫

すきま「隙間」 二④

す・く「好く」《動四段》

一き八用V 二⑥

す・く「透く」《動四段》

一か八未V 四①

す・ぐ「過ぐ」《動上二段》 cf. ゆきすぐ

一ぎ八未V 八⑭

一ぎ八用V 一② 二五⑪ 五⑦ 六③

すぐ・す「過ぐす」《動四段》

一す八体V 二⑥

すくせ「宿世」 cf. ろくろすくせ

一九⑦ 四⑬

すくな・し「少なし」《形ク活》

一く八用V 六① 七① 七⑫

一う八音便V 八⑩ 六⑬

すくな・なり「少ななり」 cf. ことすく

ななり

すぐ・る「優る」《動四段》

一り八用V 八⑦

すぐ・る「優る」《動下二段》

―れへ未▽ 一〇⑨

―れへ用▽ 一五⑩ 三〇⑦ 三三⑭ 三〇⑧

二〇⑧ 一八①

すこし「少し」《副》cf. ますますこし

三〇② 四二② 四〇⑩ 七〇⑬ 七二①

三三⑬ 五二②

すこしも「少しも」《副》二〇⑨ 六二②

すこす「過てす」《動四段》cf. おもひ

すこす

―さへ未▽ 五〇②

すざくゝるん「朱雀院」三二⑩

すざひ「遊び」*三三⑭

すざ・ぶ「遊ぶ」cf. くちざなぶ

すざま・じ「婁じ」《形シク活》

―じくへ用▽ 九⑤ 三六⑨

―じきへ体▽ 五二②

すざ・む「遊ぶ」cf. くちざなむ

す・す「誦す」cf. うちすす

すず「数珠」七〇⑩

すずき「苜」*七五⑤ 七六⑦ 七六⑧ 七六⑩

すずしのきぬ「生絹の衣」四〇⑩

すす・む「進む」《動四段》

―むへ体▽ 二④

「すずり」硯」cf. おんすずり

すぢ「筋」一〇⑫ 二〇⑬ 六〇⑨ 六〇⑥

六九⑩ 五④

す・つ「捨つ」《動下二段》cf. おぼしす

つ・ひきすつ

―てへ用▽ 三〇⑦ *五二⑧

すてがた・し「捨て難し」《形ク活》

―くへ用▽ 五二⑩

―きへ体▽ 一① 八④ 七④

すへて「総て」《副》一四⑥ 二七① 二九⑩

三〇③ 四九③ 五〇⑤ 五三④ 五三⑤

六⑫ 七⑭ 五⑬ 八〇③

すま「須磨」へ巻名▽ 一六⑤ 三七⑪

すま「須磨」へ地名▽ 三三⑦ 三三⑫

二四⑫ 三六⑪

すま・す「済ます」cf. ひきすます

すま・す「澄ます」《動四段》cf. こころ

すます

―しへ用▽ 一〇⑫

すまのわかれ「須磨の別れ」二九⑫

すまのゑ「須磨の絵」三三⑩ 三六⑬

すまひ「住まひ」cf. おんすまひ

一九③

すまふのせち「相撲の節」一七③

すみ「隅」四④

すみか「住処」一④

すみだがは「隅田川」五①

すみのま「隅の間」三④

すみは・つ「住み果つ」《動下二段》

―てへ用▽ 三三⑥

すみよし「住吉」へ作品名▽ 一五②

す・む「住む」《動四段》

―みへ用▽ 三⑤ 三六⑪ 四二⑫ 四三⑬

一〇⑥

―むへ止▽ 三⑥

―むへ体▽ *三九①

―めへ已▽ *三九②

す・む「澄む」《動四段》

―みへ用▽ 一⑨

すもりのきみ「巢守の君」三七⑥

すもりのなかのきみ「巢守の中の君」三④

す・る「擦る」cf. おしする

ずるじん「隨身」三三⑧ 三六④

すゑ「末」cf. あさちがすゑ・すゑずゑ・

そぎすゑ・よのすゑ

六① 三② 三⑥ 六九⑪ 六三⑦

すゑがれ「末枯れ」六九⑨

すゑすゑ「末末」六⑦

すゑつかた「末っ方」 六⑫

すゑつむはな「末摘花」ハ人名 一九①

すゑのまつ「末の松」 *三⑨

すゑのよ「末の世」 九③ 二六⑥ 八七⑭

すゑのはのつゆ「末葉の露」ハ作品名 六⑩

すんず「誦ず」《動サ変》 cf. うちすんず

―じハ用 三⑦

せ

せ「瀬」 cf. たきつせ・ふちせ

*四⑦

せい「制」 六⑨

せいしほまつ「制至菩薩」 八⑭

せいせうなごん「清少納言」 七②

八④

せう「抄」 cf. しふむせう

五⑥

せうしがめ「簾子が妻」 八⑫

せうしやう「少将」 cf. くらうどのせう

しやう・しそくせいのせうしやう・

ていかせうしやう・べんのせうしやう

三⑤ 六② 六⑤

せうせう「少少」《副》 三⑦ 五⑩

せうなごん「少納言」 cf. せいせうなごん

せうねん「少年」 四⑩

せかい「世界」 九⑭

せき「関」 cf. あぶさかのせき

三②

せきか・ぬ「堰きかぬ」《動下二段》

―ねハ用 三③

せきもり「関守」 一〇⑭

せち「節」 cf. すまふのせち

ばし

―くハ用 三⑫

せみまろ「蟬丸」 七①

せめて《副》 三⑬ 二⑯ 三⑰

せんくわんぱくのたいしやう「前関白の

大将」 六⑦

せんさい「前裁」 三⑪ 六⑬

せんさいぐう「前斎宮」 六⑧⑭

せんざいしふ「千載集」 高⑦ 六④

せんじ「宣旨」 cf. とうぐうのせんじ・

みやのせんじ・やまとせんじ

せんしふ「撰集」 cf. せんず

三⑧ 三⑨

せんず「撰集」 cf. せんしふ

五⑭

せんず「撰ず」《動サ変》

―じハ用 五⑩

せんねん「千年」 八③

せんぶ「千部」 一⑦ 一③⑦

そ

そ「其」 cf. その・そは・そも

そ「衣」 cf. おんぞ

そ「僧」 cf. おほちのそ

七⑥

そうしども「僧子ども」 八③

そうづ「僧都」 cf. なにがしそうづ

そぎすゑ「削ぎ末」 *五④

そ・ぐ「削ぐ」《動四段》 cf. ことそぐ

―ぎハ用 五⑥

そくしんじやうぶつ「即身成仏」 六⑥

そこ「其処」《代》 *六③ 六⑧

そこ「底」 *四⑦

そし・る「誇る」《動四段》

―りハ用 五⑫

そそのかす「唆かす」《動四段》

- しへ入用▽ 三①
 そぞろ・く「漫ろく」《動四段》
 しへ入用▽ 六⑦
 そぞろことども「漫ろ事ども」 七①
 そぞろ・なり「漫ろなり」《形動ナリ活》
 しへ入用▽ 八⑨ 七⑭
 そち「師」 cf. ゆきひらのそち
 そちのなかのきみ「師の中の君」 六⑪
 そで「袖」 三⑩ *三⑬ *三⑯ 三⑰
 *六⑦ 四⑤ *六⑧ 六⑨ *六⑲ *六⑳
- そと「外」 cf. にせんりのそと
 そなた「其方」《代》 二④
 そねま・し「嫉まし」《形シク活》
 ししきへ入体▽ 一九⑩
 そね・む「嫉む」《動四段》
 しへ入用▽ 三⑦
 その「其の」《連》 五③ 六④ 一〇②
 二⑬ 一八② 一九⑥ 三〇① 三①
 三⑭ 二六③ 二六③ 四〇⑬
 三⑰ 三⑱ 五② 五④ 六⑭
 六⑱ 六⑱ 六⑱ 七〇④
 七⑳ 七⑳ 七⑳ 八⑳
 八⑳ 八⑳ 八⑳ 九⑳
- 三② 六⑤ 六⑩ 八① 八②
 八④ 八⑨ 九⑱ 九⑶ 九⑷
 そのかみ「当時」 一⑤ 九⑶ 七
 そのたまへ人名▽ 五③
 その「其は」《連》 二七⑤
 そは「傍」 六⑭
 そばだ・つ「敵つ」《動下二段》
 しへ入用▽ 三⑧
 そひぐる・し「添ひ苦し」《形シク活》
 ししうへ音便▽ 八⑨③
 そひ・ゐる「添ひ居る」《動上一段》
 しへ入用▽ 七⑦
 そ・ふ「添ふ」《動四段》 cf. たちそふ
 そ・ふ「添ふ」《動下二段》
 しへ入用▽ 四⑩
 しへ入用▽ 一⑥ *三⑥ *六⑥
 そ・む「初む」 cf. おもひそむ・しりそむ・みそむ
 そ・む「染む」《動下二段》
 しへ入用▽ *三⑦
 しめへ入用▽ 一④ 六⑱ 五⑭
 そむ・く「背く」《動四段》
 しへ入用▽ 八⑱ 九⑲
 きへ入用▽ *三⑧
- しへ入用▽ *三②
 そも「其も」《連》 五⑥ 二四⑭ 二六②
 四⑱ 七①
 そよ・く「戦ぐ」《動四段》
 しへ入用▽ 三②
 そら「空」 二六⑥ *二八⑧ 三① 三⑬
 *三⑨ *三⑮ *三⑰
 そらごと「空事」 七⑧
 そらじに「空死に」 六⑦
 そら・なり「空なり」《形動ナリ活》
 しへ入用▽ 一⑤⑥ 四④ 四⑥ 四⑩ 五⑩
 そらね「空寝」 八⑫
 そらね・す「空寝す」《動サ変》
 しへ入用▽ 三②
 そる「剃る」《動四段》
 しへ入用▽ 一④ 五⑭
 それ「其」《代》 五⑦ 八⑥ 一四④ 一四⑭
 一⑲ 三⑲ 四⑱ *四⑱ 五⑰
 五⑱ 六⑲ 六⑲ 六⑲ 六⑲
 七⑱ 七⑱ 七⑱ 七⑱ 七⑱
 七⑱ 七⑱ 七⑱ 八⑱ 八⑱
 九⑱ 九⑱ 九⑱ 九⑱ 九⑱
 十⑱ 十⑱ 十⑱ 十⑱ 十⑱
- それがし「某」《代》 cf. とつちのちゅうじ
 やうそれがし

それゆゑ「其れ故」(接) 八六⑭
 五〇
 さん・ず「損」 cf. まねびそんず
 さんわう「孫王」 四〇①

た

たい「対」 三⑦
 たいあんだう「戴安道」 八⑫
 だいいち「第一」 cf. ほっけさいだいいち
 ち

六一① 一二② 一四② 五⑭

ださいあん「大斎院」 八⑦ 六①

たいし「太子」 四⑨

だいいじ「大事」 三③

たいしやう「大将」 cf. かほるたいしやう

う・ぜんくわんばくのたいしやう・

とのたいしやう・ひげくろのたい

しやう・まめびとのたいしやう・み

やのたいしやう

三⑤ 三③ 四② 四⑥ 四⑥

四⑪ 三⑪ 六⑤ 五⑥ 六⑦

六⑨ 六③ 六① 六⑬ 六⑭ 六⑨

だいいじやうてんわう「太政天皇」 四⑫

たいしやうどの「大将殿」 五② 六②

たいしやうのうへ「大将の上」 五⑪

六⑬

たいしやうのひめぎみ「大将の姫君」

五①

だいちろくはんしんどう・す「大地六反
 震動す」

—する入体V 四⑦

だいなごん「大納言」 cf. あぜちのだい

なごん・こうばいのだいなごん・こ

んだいなごん

六③ 六⑭

だいなごんのきたのかた「大納言の北

の方」 六⑩

だいに「大貳」 一⑨⑩

だいにがむすめ「大貳が女」 六⑩

だいにのむすめ「大貳の女」 五⑥

だいのうた「題の歌」 五⑬ 五⑭

六②

たいのきみ「対の君」 五②

たいふ「大輔」 cf. いせのたいふ

だいまやうじん「大明神」 cf. かものだ

いみやうじん

たいめん・す「対面す」(動サ変)

—し入用V 四⑫

だいもん「大門」 二②

たう「唐」 五④

だう「堂」 cf. ちぶつだう・ほっけだう・

みだう